肝炎医療コーディネーター活動ガイドブック

職種別スタートアップ編
～肝Coことはじめ～

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」

肝炎医療コーディネーターの皆様へ

肝炎医療コーディネーター（以下肝Co）を取得された皆さんは、肝疾患の患者さんのために日々活動をされていると思います。
「肝Coの研修を受けたので何か活動していきたいな」「今行っている肝Co活動の他にもできることはないかな」などと悩んだりしていませんか？

肝Coの活動は日々の業務の延長線上にあります。自分では「できていない」と思っていても、実は「すでに自分の強みを生かした活動ができていた！」なんてことがたくさんあります。

では、あなたの強みとは何でしょう？それを見つけるには、あなたの職種が大きなヒントとなります。どの職種も自分の専門性や立場を強みととらえた活動を行い、他の職種と連携することが肝Co活動の大きなポイントです。

そこで今回、肝Coの皆さんに専門職種ごとにご協力いただき、アンケートおよび座談会を開催し、自分の職種の強みでできる活動を紹介していただきました。自分の職種のページはもちろん、他の職種の強みや肝Co活動事例を見ていただき、連携や活動のヒントにしていただければ幸いです。

日本全国、肝Coの仲間がそれぞれの場所で活躍しています。ぜひみなさんも自信をもって自分の職種の強みを活かした活動に取り組んでみてください！

活動ガイドブックを作成するにあたり、御協力頂きました多くの肝Coの皆様に深謝申し上げます。

肝Co活動は最高のバトンタッチで

肝Coの活動の基本は『コーディネート』です。皆さんは、自分一人で、すべての活動を担いたいと思っていませんか？患者さんや相談者さんからの相談についてその場ですぐに回答できて、一人前などと思っていませんか？

相談者さんが何を求めているか、何を望んでいるかを知り、その相談事に最も適した肝Coや肝臓専門医につなげる『コーディネート』が重要な活動です。つまり知らない知識はその専門家につなげることが基本的な活動！！

さらに、あなたの強みを使って、つなげ先として活動することができたら肝Co活動として最高な活動ですね。

全国に現在（2024年）までに約３万人を超える肝Coが養成されています。一人ひとりの活動の連鎖はすばらしい活動となります。ですから、まずは気負わずに、自分の立ち位置でやれることからはじめてみませんか？

そして、最高のバトンタッチで連携し、活動を広げていきましょう！

活動の５つのコツ！

①強みを見つける

あなたの得意な分野は何ですか？あなたが自信をもってできることはなんですか？仕事が自分の強みになることもありますし、自分の経験が強みになることもあります。皆さんそれぞれに強みがあります。その強みをまずは見つけてみましょう。この活動なら普段の仕事の中でやっているという方もいるでしょう。しかし、肝Coになったことで見えてくること、知り得た知識によって今までより付加価値がついているはず。それも強みととらえ自信をもって活動に活かしてください！

②自分の肝Co活動をアピール

肝Coの存在や、肝Coのいる場所、肝Coがどのような活動をしているのか、まだまだ周知がされていないのが現状です。自分がどこで、どんな活動をしているかを知ってもらうことが活動につながります。患者さんに知ってもらうことも大事ですが、上司や同僚に肝Coの存在や活動、自分がどんな活動をしているのかを話したことがありますか？知ってもらうことで活動が認められ、活動しやすい環境になることもあります。また、あなたの活動を見てくれている人がいます。その活動を見て仲間が増えることもあります。ぜひ自分の活動をアピールしてみましょう！

③自分の立ち位置で気負わずできる活動から

自分の立ち位置はどこでしょうか？同じ職種でも、予防、受検、受診、受療、フォローアップ等いろいろな場所で活動は違ってきます。まずは自分の立ち位置でできる活動を考え一歩前に進んでみましょう。経験が増えることで、自信につながり活動が広がっていきます。
肝臓専門の部署から異動になって悩まれている方もいるかもしれませんが、それは大きなチャンスです。異動先が肝臓の専門でないからこそ、肝Coの出番です。肝臓専門医につなぐ重要なかけ橋となることができます。

④新しい情報を入手しましょう

知識を増やすことは活動の幅が広がり、活動の自信にもつながります。肝Coのアンテナを立て、多くの情報を知ることが活動のヒントです。
最近は、地域の研修会や講演会もwebでの開催が増え、参加できる機会も増えています。是非、情報を得る機会を見つけましょう。

⑤仲間を増やす

一人でできない活動も多くの肝Co仲間と協力することでできることも広がりますし、つなげ先が多いほど活動の安心につながります。つなげ先がわからないときは肝疾患診療連携拠点病院へつなげましょう！きっと力になってくれますよ。

食と栄養のことならおまかせ！

「栄養士」

人数が少ないので遠慮しているかもしれませんが、食に関することなら何でもご相談ください。頼られたら嬉しいです！

- 肝臓病の食事について質問があるみたい
- 食事の調整をお願いしたい
- あまり召し上がってくださらなくて…
- メニューの説明をしてほしい
- アルコールの適量って？

〈連携のタイミング〉
栄養相談オーダー時、食事で困った時、etc.
→内線電話、メールでいつでも連絡OK!

＼栄養士ってこんなお仕事です！／

❶**給食業務**…入院患者さんのお食事は私たちが準備しています。
❷**栄養相談**…入院および外来の患者さんのお食事に関する相談に対応します。
❸**入院中の栄養管理**…多職種と協働してNST活動を行い、入院患者さんの栄養状態を改善します。
❹**啓発活動**…市民公開講座や啓発イベントに参加して、食と栄養の大切さを伝えます。

など

栄養士の活躍フィールド

■病院　■クリニック　■健診機関　■介護・福祉施設　■薬局　■給食会社
■公務員（保健所）　■自衛隊　■保育園・学校　■一般企業　■スポーツ施設
など

栄養士の肝Co 活動事例

はじめの第一歩！ お食事に肝臓病の啓発メッセージを添える

世界肝炎デー（7月28日）は活動のチャンス!!

こんな活動も！ 患者さんやご家族と個別にお会いする時が、肝Co活動のチャンス！

ホップ★

栄養相談室にポスターやチラシを掲示

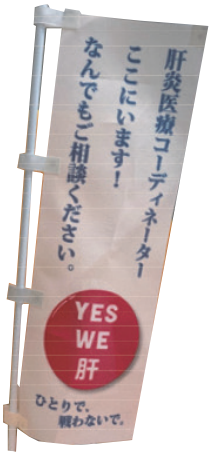
栄養相談室の中なら医療施設内よりも掲示物を貼りやすいですよね。

肝Coの存在を知らせる置き物（フラッグ等）を設置

個別に会える時がチャンス！肝疾患の栄養相談時に肝Coであることを
PRすることで、肝臓のことを相談しやすい雰囲気を作りましょう。

肝機能障害があれば、肝炎ウイルス検査の受検歴の有無を確認

肝疾患以外の栄養相談中に肝機能障害を認めた時は、肝炎ウイルス検査をした
ことがあるかを聞いて受検が確認できなければ肝炎ウイルス検査を勧めましょう！



ステップ★★

相談内容は必要に応じて専門職につなげる

助成金のことなら医療事務やMSW等、専門職につなげることも大事な役割です。

医師や看護師、理学療法士等との連携を行う

肝疾患は食事だけでなく運動も大事。理学療法士との連携で活動が広がります。

ジャンプ★★★

肝臓専門医を巻き込み、肝臓のことを相談できる多職種チームをつくる

院内で肝臓に関心がある多職種のチームを作ることができたら最高！
肝臓病教室がなければ立ち上げを考えてみましょう！

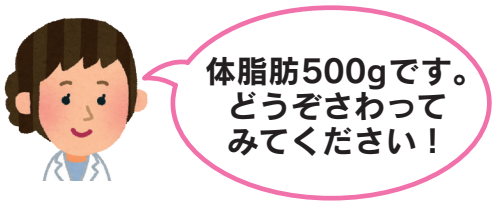
拠点病院等からの案内があれば、院外の啓発活動にも参加してみる

院外でのイベントへの参加は、普段味わえない肝Co活動が経験できたり、楽しみや仲間の輪も広がります。是非参加してみましょう！

脂肪肝からの肝がんが増加中！！
これからは栄養士の出番です！

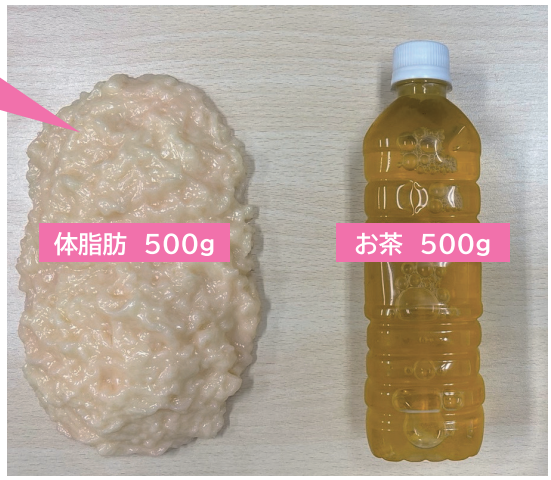
脂肪肝は肝がんのみならず循環器や代謝疾患などと関連しており、あなどれません。脂肪肝は食べ過ぎや運動不足、アルコールの多飲などの生活習慣の乱れから起こる病気であり、栄養療法・運動療法が治療の基本です。だからこそ、肝Coの研修を受けた栄養士の出番と言えるでしょう。まずは「**脂肪肝は将来の心筋梗塞や脳卒中の危険信号であり、食事・運動など生活習慣の見直しが必要である**」ことの啓発から始めてみましょう！

便利ツール①「体脂肪の視える化」



脂肪の模型

見るだけで
食べ過ぎ
防止に!?



便利ツール②「握力測定」

握力計

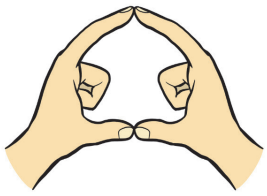
男性28kg、
女性18kg
これより
低い方は注意！

※日本肝臓学会サルコペニア判定基準-第2版-
握力を測定して、男性<28kg、女性<18kgの基準を満たす場合は筋肉量の測定を行う。筋肉量はCT法（男性<42cm²/m²、女性<38cm²/m²）、またはBIA法（男性<7.0kg/m²、女性<5.7kg/m²）のいずれかで測定し、基準を満たす場合はサルコペニアありと判定する。

便利ツール③「筋肉量の簡易チェック」

指輪っかテスト

すき間ができる
＝サルコペニアのハイリスク



Tanaka T. et al Geriatr Gerontol Int 2017

先輩肝Co栄養士からのアドバイス

栄養指導という言葉は患者さんのプレッシャーに！？

指導と言われると、患者さんは「怒られる」と身構えてしまいます。
なるべく「栄養の相談やアドバイスがもらえる」という柔らかいイメージで話すようにしましょう。管理栄養士にバトンをつなぐことがうまい医師は実際に“栄養指導” という言葉は、使わず、説明をしています。

「あなたの病気は食事の見直しと実行ができたら薬が不要になることもあります。個別に相談にのってくれるので生活習慣病を専門とする栄養士さんに普段のお食事や運動等の生活のアドバイスをしてもらいましょう！」

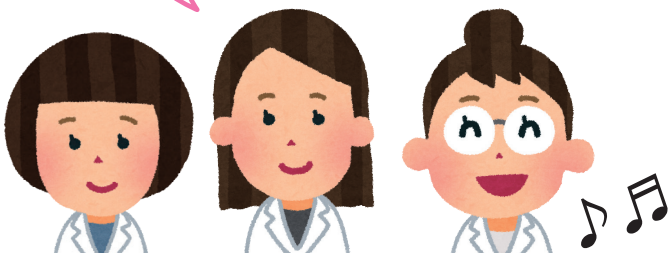
「栄養士に最高のバトンタッチをしてください」

大部屋での栄養相談は他の患者さんへのPRの場に！？

患者さんは他の人の栄養相談を聞いています。大部屋では患者さんの病名についての発言は控えるなどプライバシーに配慮しつつ、周りの人にも興味を持ってもらえるようなやりとりを意識しましょう。

肝Coを取得して
一番良かったと
思うことは
何ですか？

肝Co活動を
通して他施設の栄養士と
横のつながりを
つくることが
できたことです！



薬のことならおまかせ！
「病院薬剤師」

診療に横断的にかかわるので、
連携しやすい職種です。

こんな時は
頼ってください!!

- 服薬アドヒアランスの向上のためにアドバイスを！
- 薬の最新情報を教えてください！
- 薬が飲みにくいのでいい方法はないですか？
- 薬を一回分ずつ包装してください！
- 分岐鎖アミノ酸製剤（BCAA製剤）について相談したい！
- 持参薬を確認してください！

＼薬剤師ってこんなお仕事です！／

❶**服薬のアドバイス**…患者さんに薬の適正使用を伝え、アドヒアランスの向上を支援します。服薬が難しい患者さんとは一緒に解決策を考えます。

❷**持参薬の確認**…入院する際の持参薬について調べます。
粉砕されていたり、後発品はわかりにくく、大変なお仕事です。

❸**DI（医薬品情報管理）**…医薬品情報を管理・収集・提供し、問い合わせにも対応します。

❹**調剤・調整**…処方箋のチェックと調剤を行います。一回分に包装も行います。

❺**疑義照会**…患者さんの安全を守るため処方内容などについて処方医に確認を行います（気を遣います）
患者さんのアドヒアランスを把握し、そして科学的根拠をもって疑義照会できるよう心がけています！

など

薬剤師の肝Co　活動事例

はじめの第一歩！

持参薬からはじまる関わりがあります。

薬剤師なら持参薬チェックや、服薬のアドバイスは大事な業務。患者さんの残薬などから、服薬の状況も気になりますよね。患者さんが、肝臓に関する薬剤のアドヒアランスを向上していけるような業務も肝Co活動と言えます。患者さんと話をする中で薬を飲めない理由を一緒に考え、解決策を考えます。患者さんの背景をお聞きし、患者さんにわかりやすい言葉で、患者さんの背景に合わせて説明することで支援の方向性が見えてくることもあります。

こんな活動も！

普段の薬剤師業務のなかに、肝Co活動のチャンスが眠ってる！

ホップ★

B型肝炎ウイルスの再活性化対策から支援へつなげる

再活性化が疑われる薬剤（抗がん剤や免疫抑制剤）の調剤や調製をするときにB型肝炎ウイルス検査をしているか確認や周知を！点滴の抗がん剤は多くの薬剤師でチェックできますが、内服になると人手が少なくなることも。肝Coの研修を受けた薬剤師ならではの視点も大切だと思います。医師が再活性化の疑われる薬剤を処方する際に、アラートが自動で表示されるシステムを導入できるとなおGood ！

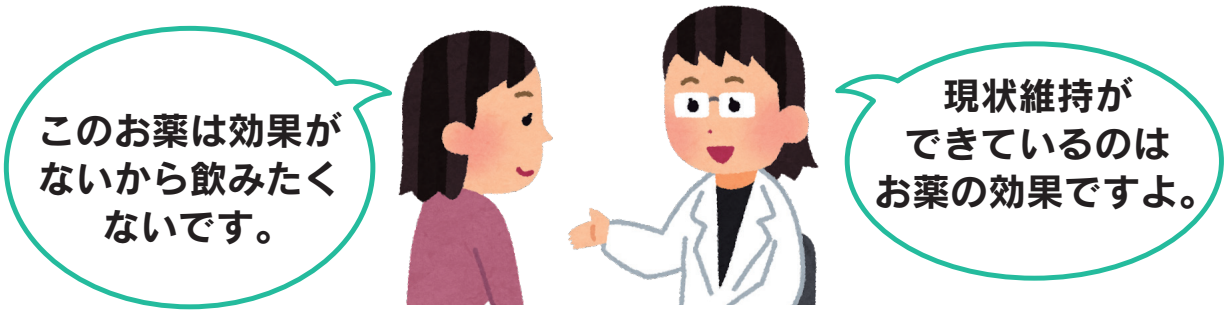
服薬指導のときにフォローアップの念押しを

特に若い人では、処方された薬を飲み終わった後に通院中断をしてしまうことが多いようです。治療開始時から薬をお渡しする時に「肝炎ウイルスはいなくなっても、肝発癌のリスクは残るので定期検査は必ず受けてください」と意識的に声掛けを。

ステップ★★

患者さんに「なぜ服薬が必要か」を繰り返し説明する

なぜ薬を飲まなければいけないかを理解してもらうことは重要です。服薬アドヒアランスが低い方に対し、専門的な言葉ではなく、患者さんに分かる言葉で繰り返し説明しましょう。そもそも肝臓がどんな働きをしているのか？などから話してもよいかもしれません。



お薬のコストを気にする患者さんも多いです

お薬の金額を気にする患者さんも多くいらっしゃいます。医療費助成について知らない患者さんもいますので、服薬のアドバイスの際に助成制度がある事をお知らせして、詳しい話は医事課など詳しい人につなげることも肝Coの役割です！

ジャンプ★★★

検査結果を踏まえて積極的に声かけを

術前のスクリーニング検査などで肝炎ウイルス検査が陽性と分かったらこれまでの検査歴や通院歴をきいてみましょう。また、糖尿病薬を飲んでいたり、血小板数が低いという人を見かけたら、服薬のアドバイスをする際に、消化器内科の通院歴や、腹部超音波検査の受検歴もあわせて確認できるといいですね。

電子カルテにアラートを追加する提案を

再活性化対策として、対象薬剤を処方する際のHBｓ抗原検査や治療後のフォローアップ検査のアラートが電子カルテに出るように働きかけるなど、医療安全の観点からきっかけを作ることも活動の一つです。

保険薬局との連携も

地域の保険薬局との勉強会や、トレーシングレポート等で連携して患者さんをフォローアップするシステムも広がっています。入院期間だけでなく、退院してからも患者さんにとっては心配が多いもの。そんな時にこの連携が役に立ちます。

薬剤師だからこそ横断的にかかわることができます。他の疾患で入院中でも肝疾患の薬を継続する必要性について、患者さんだけでなく、多職種にもお伝えすることも薬剤師としてまた、肝Coとしてできることではないでしょうか

先輩肝Co薬剤師からのアドバイス

日常業務のなかで肝Co活動になっていることがあるはず！

「私も肝Coとして何か活動しなきゃ」と焦ることがあるかもしれません。でも、普段していることでも肝Coとしてできていること、できることがあるはずです。あまりハードルを高く考えないようにしてくださいね！

薬薬連携で肝Co同士がつながることもあります！

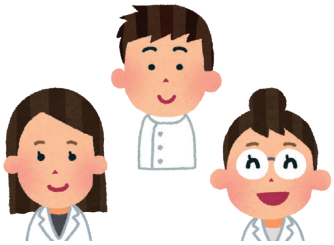
肝Coの薬剤師が少ない場合「自分だけ…」という気持ちになりますよね。でも悩んでいるのはあなただけではありません。病院薬剤部や保険薬局との連携「薬薬連携」などで肝疾患の患者さんを見守ることもできるはず。みんなで悩みを共有して同じ方向を向いていきましょう！

患者さんと「肝炎ウイルスを排除した」という喜びを共有できた時はとても嬉しいです。誰かに頼られることはモチベーションにつながり、薬剤師というだけでなく、肝Coとして頼られるとやっててよかったと思います。

肝Coの仲間が多ければ多いほど、同じ肝がん撲滅という目標に向かって活動できます。

薬剤師と他職種との連携

サルコペニア対策をきっかけに、栄養士や理学療法士と連携することができます。分岐鎖アミノ酸製剤の継続に必要な情報を他職種との連携で収集し患者さんに説明することでアドヒアランス向上効果もあり、肝Co同士のつながりにも役に立ちます。



身近な薬のスペシャリスト
「薬局薬剤師」

薬だけじゃない、地域の
健康の専門家です。

**薬局機能をフル活用し、
多職種と情報を共有・協働して、
地域住民の健康・医療に
貢献します！**

＼薬局薬剤師ってこんなお仕事です！／

❶**街の薬屋さん機能**…一般用医薬品（OTC）などの販売だけでなく、健康相談などの予防対策も行っています。

❷**処方箋調剤**…処方箋のチェックをしながら、医療用医薬品を調剤します。服薬指導やアドヒアランスの確認なども行います。

❸**訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導**…自宅療養している方の家に訪問し、服薬指導などを行います。多職種が集まる地域ケア会議、退院時カンファレンス、サービス担当者会議にも出席することもあります。

❹**学校薬剤師、災害対策など**…学校薬剤師として、校内の環境を整える、保健室や理科室の薬剤管理、フッ化物洗口などの管理、アンチドーピングの指導などを行います。地域の健康教室や市民公開講座などに呼ばれて、肝疾患を含む様々な病気の話をします。災害対策やスポーツ薬剤師として活躍している人もいます。

私たちは患者さんの身近にいて、健康を支える職種と
認識されることを目指しています！

薬局薬剤師の肝Co 活動事例

はじめの第一歩！ なんでもご相談ください！の声かけ

薬局薬剤師は調剤から服薬支援や生活支援（飲酒、喫煙、栄養、運動など）まで関わることができます。このときに「なんでも相談してくださいね」という声かけをすることが肝Co活動のきっかけになります！

「お薬飲まれているから安定していますね」

定期検査の結果が安定している方には、モチベーションを上げる声かけをしています。

「連続して忘れないようにしてくださいね」

長期間にわたり服薬している患者さんは、ストレスや不安を抱えており、一時的に内服を中止してしまう方もいらっしゃいます。患者さんの様子を見ながら声かけ方法を考えます。患者さんも薬を飲まないといけないことは理解されているので、伝え方を配慮しましょう。

「健診や肝炎ウイルス検査を受けていますか？」

比較的、健康診断をおろそかにしがちな若い世代に呼びかけをしています。肝炎ウイルス検査の受検を勧めることもできます。

ちょっとしたことでも相談できる薬局薬剤師の存在は大きい！

患者さんから、病院での診察の際に医師に尋ね忘れた内容について質問される事が多くあります。薬局薬剤師になんでもご相談ください、と伝えると喜ばれますよ！

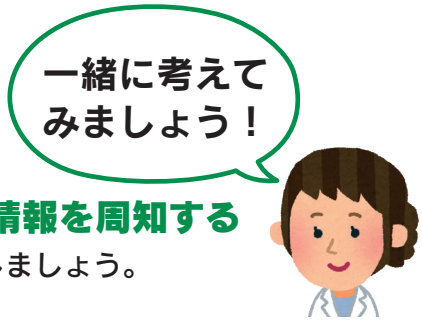
薬局薬剤師の肝Co 活動事例

薬局薬剤師の強みを活かしましょう！

ホップ★

なぜ患者さんが服薬できないのか、その理由を知る

B型肝炎の薬は長期間に服用しなければなりませんし、C型肝炎の薬は、効果を得るために自己中断がないようにする必要があります。かかりつけ薬剤師は、患者さんとコミュニケーションをとり、きちんと服薬できているかを聞き取り、もし飲み忘れなどがあればきちんと理由を知った上で、それに対してアドバイスすることができます。処方薬以外の薬とあわせて管理できるのも、かかりつけ薬剤師の強みですね！



ステップ★★

肝炎ウイルス検査やFIB-4 indexなどの肝疾患に関わる情報を周知する

拠点病院や県の肝疾患の取り組みを広く周知する場として薬局を活用しましょう。
（ポスターの掲示など）

定期検査のフォロー

電子カルテやお薬手帳を参照したり、患者さんとの会話の中から、ウイルス性肝炎の治療歴がある人には、フォローアップ（定期検査）ができているかを確認しましょう。

ジャンプ★★★

肝がん・重度肝硬変患者さんへの関わり

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業による治療費助成制度が開始となり、薬局でも制度利用に関して重要な役割があります。また、自宅に帰られてから肝がんに関する内服薬の副作用などに悩む患者さんがいます。そのような方に対して、電話で内服状況や副作用を把握する「テレフォンフォローアップ」等の活動も始まっています。患者さんを薬剤師がフォローアップして主治医に報告することで安全な治療の継続につながることはもちろん、薬局と病院の連携も深まります。

こんな活動も！

県・拠点病院と薬剤師会の連携

糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが高いにも関わらず腹部超音波検査を受けたことがない人が少なくありません。県や拠点病院と薬剤師会が連携し、世界糖尿病デーに合わせて、糖尿病薬を内服している患者さん向けに、腹部超音波検査を勧める啓発活動をしている県もあります。このような活動も薬局薬剤師の肝Coだからできる重要な活動ですね。

先輩肝Coからのアドバイス

肝Coの研修を受けることは、患者さんだけでなく、医療者に対しても薬剤師としての信頼を高めることにもつながります！

地域と医療の橋渡しをしよう！

患者さんが病院から一旦離れてしまうと、患者さんも病院へ行きづらくなることがありますし、医療側からのアプローチも出来にくくなります。地域の薬局だからこそ、そのような人に接した場合は薬剤師からの声かけにより、再度医療へつなげる橋渡しができると思います。

地域の人々の健康を守るのが私たちの役目です！

薬剤師は日々勉強！患者さんに質問されると、それに答えるために勉強することになり、スキルアップの相乗効果が得られます！

患者さんに選ばれる薬剤師になろう！

薬剤師ですが、肝炎に関する研修を受けているので、何でもご相談くださいねと伝えることで、信頼関係の構築につながり、患者さんに話を聞いてもらえるきっかけになります。患者さんの役に立つことができると、自分自身のモチベーションにもつながります！患者さんから「この薬局が詳しいよと聞いて来た」と聞いたときは嬉しかったです。

患者さんと話を弾ませるヒント

- 最近は脂肪性肝疾患について興味を持っている人が増えています。
- 患者さんが興味を持っていることから話を始めるとコミュニケーションがとりやすいです。
- 体組成計を薬局に設置しておくと、内臓脂肪の数値などから脂肪性肝疾患の話がしやすくなります。

検査のことならおまかせ
「臨床検査技師」

患者さんと直接、接する機会が少ないですが、裏方としてお役に立てるように活動しています。

- 検査結果について聞きたい
- 院内での肝炎ウイルス検査の陽性率は？
- 肝炎の検査は受けられますか？

＜連携のタイミング＞
採血～検査結果の拾い上げなど検査の事なら何でもご相談ください

＼臨床検査技師ってこんなお仕事です！／

1. **検体検査**…血液や尿など人から採取した検体を検査します。
2. **生理学的検査**…超音波検査、聴力検査、呼吸機能検査、心電図、脳波検査等を行います。
3. **検体採取**…採血なども行います。
4. **啓発活動・肝臓病教室での検査の説明**…市民公開講座や啓発イベントで検査結果の見方などを伝えます。
5. **検査結果の拾い上げ**…検査結果から、知りたいデータを抽出します。

臨床検査技師の活躍フィールド

病院の検査室、健診機関以外にも、術中モニタリング、
病理部での組織診や細胞診、内視鏡室でも活躍しています！

臨床検査技師の肝Co 活動事例

はじめの第一歩！

検査待合室にポスターやチラシ、フラッグを設置

採血の待ち時間は患者さんにとって落ち着かない時間となります。その時間を活用して気を紛らわすようなポスターやパンフレット、学会で発表したポスターを掲示することで啓発につなげています。簡単な体操などのポスターを貼ると、それを見ながら体を動かす患者さんもいらっしゃいます！患者さんからは話しにくいので、ポスターを見ている人に積極的に声をかけましょう。

こんな活動も！

患者さんと直接会うことが少ない職種ですが、影の立役者として活動できます！

ホップ★

検査結果から肝炎ウイルス陽性者を拾い上げる

検査結果が集まる検査部では肝炎ウイルス陽性者を把握できます。まずは自分の病院にどれくらい陽性者がいるか確認してみることから始めてみては？

採血時の止血時間に肝炎の話を持ちかける

採血の止血時間は黙っているより、肝炎ウイルス検査の案内をして、家族の方にもお勧めしてくださいね！と声をかけてみましょう。

ステップ★★

FIB-4 Indexの計算結果を検査結果に反映させる

FIB-4 IndexはAST、ALT、血小板の結果と年齢が分かれば算出可能です。計算システムだけ構築すればよいので、思っているより導入のハードルは低いかもしれません。

拠点病院等からの案内があれば、院外の啓発活動にも参加してみる

イベントに参加することで、啓発に直接関われるだけでなく多くの肝Coと出会うきっかけになります。ぜひ仲間づくりに参加してみてはどうでしょうか？

ジャンプ★★★

検査結果を活かすためには他職種の肝Coと連携する

検査結果を抽出後、陽性だけでなく陰性であってもその結果を患者さんに還元することは重要です。還元するには、患者さんと接することの少ない検査技師だけでは難しいですよね。だからこそ、他職種と役割を分担する体制を整えることが重要になります。

無料肝炎ウイルス検査を行う体制づくり

無料検査を自施設に導入するためには、コスト面や医療安全面から病院管理者の理解を得ることで体制が整った施設もあります。

検査データは命を守る結果！
是非肝Co活動に活かしましょう！

拾い上げがうまくいっている病院は検査技師の活躍が肝！

検査結果をいち早く知り、そのデータを保管しているからこそ、肝炎ウイルス陽性者を拾い上げることができます。拾い上げから多職種と連携をすることで、活動は広がります。検査を外注している病院でも、検査結果を確認して、拾い上げはできますよ。

検査を最初に見る職種の強みを生かす

ホップ★

肝炎ウイルス陽性者の拾い上げ

検査結果の抽出は臨床検査技師の強みです。このチャンスを生かしましょう！

ステップ★★

肝炎ウイルス陽性者の背景のチェックと受診勧奨

拾い上げたデータを誰に共有するかが重要！医師、看護師、事務など、その情報を活用できる職種と連携していきましょう！

ジャンプ★★★

流れやシステムづくり（電子カルテのアラートシステムや肝炎ウイルス無料検査の導入）

自動計算で表示させるだけなら、意外とシステムは簡単にできます。拾い上げた陽性者のリストを誰に共有するか、流れを決めて、システムを構築しましょう！

患者さんの知りたい事は、検査結果の見方！！

患者さんにアンケートを取ると、治療のことに続き、検査結果の見方は関心の高い項目です。臨床検査技師だからこそ、検査の結果を伝えることも大事な役割です。肝臓病教室などをきっかけに検査結果の見方について患者さんに伝えてみてはいかがでしょうか？

先輩肝Co臨床検査技師からのアドバイス

活動のコツは上司の理解と仲間づくり

まずは検査技師長へのアプローチからはじめましょう！
上司の理解を得ることで活動しやすくなります。肝臓専門医に相談するのも近道のひとつ。他職種の肝Coがいたら、まず声をかけてみましょう！

無料検査を導入するメリットは病院にも！
病院にどれだけ貢献できるのかで、病院側の理解も得やすくなります。

患者さんとかかわる機会が少ないからこそ、多職種の仲間を作ろう！

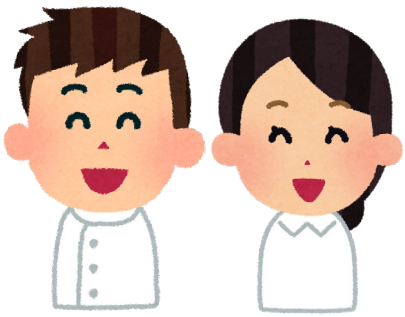
患者さんと密接にかかわる機会が少ないからこそ、多職種の仲間を作り、連携することで、情報も活用でき、肝Co活動も広がります。

＜仲間を作るきっかけ＞
職種にこだわらず、仲の良い人に声をかける／イベント参加

健診現場では、事務、看護師、保健師等と連携して、陽性者を精密検査につなげましょう！

精密検査の結果通知文だけでは陽性者を受診につなげられないこともあります。だからこそ、健診の場にいる時のアプローチが重要です。
陽性者の方の自宅近くの肝臓専門医がいる病院を紹介したり、予約をとるなど確実に受診につなげることもできます。
その際は、事前に地域の肝臓専門医がいる病院との連携も大事ですね。

あなたの行動がきっかけで、患者さんの命を守れるかもしれません。
そう思えば、今すぐにでも動き出したくなりませんか？



社会福祉のスペシャリスト
「ソーシャルワーカー」

相談窓口にいる私たちは、
患者さんの不安やお困りごとを
サポートさせていただきます！

こんな時は私を頼ってください！

- 医療費がいくらかかるのか心配
- 何か利用できる助成制度やサービスなどはありますか？

患者さんの悩みを解決するために必要なサポートや窓口への橋渡し役！

ソーシャルワーカー（SW）ってこんなお仕事です！

SWとは、「社会福祉士」や「精神保健福祉士」の総称。

病気や障害などによって生活に不安や悩みを抱える方に対して、相談や援助、調整を行う専門職です。

1. **情報提供によるサポート**…医療費の制度や助成制度等の説明をします。
2. **退院時の援助**…医療機関への転院、施設入所、訪問看護、介護申請などへスムーズに移行できるように相談対応・支援します。
3. **社会復帰援助両立支援**…職場復帰のお手伝いをします。
4. **紹介や連携（院内・院外）**…患者さんにとって適切な機関や施設への紹介や、施設との連絡を行います。
5. **経済的問題の解決、調整などの支援**

SWの活躍フィールド

病院というフィールドを越えて連携し、さまざまな機関で幅広く活躍しています！

- 病院の相談室や連携室
- 社会福祉施設、地域包括支援センター、社会福祉協議会
- 行政、学校など

SWの肝Co 活動事例

はじめの第一歩！

肝炎に関する制度の正しい知識を伝える

肝炎には様々な助成制度（国、都道府県）があります。SWだからといって肝炎の制度に詳しいとは限りません。肝Coの研修を受けることで、自分の仕事の延長線上で有用な知識を得られます。肝炎の制度や連携先は一度覚えれば繰り返し使える内容なので、患者さんの支援に役立ちますよ！

こんな活動も！

多職種とかかわることが多いSWだからこそ、できる活動がある！！

ホップ★

相談窓口にいるからこそ、悩みを聞き、解決につなげられる

SWの配属先は相談室や拠点病院の窓口が多いので、患者さんに各種制度を分かりやすく説明するとともに、適切な連携先につなげることができます。

身体障害者手帳や指定難病の申請、障害年金等の説明も

肝炎に関する情報にとどまらず、福祉に関する情報についても、専門職として説明することができます。

ステップ★★

退院後にかかわる地域の多職種との連携

SWは退院後の生活に必要な訪問看護、介護、施設の利用に関しての調整役です。退院後は自宅だけでなく、転院・入所することもあります。その際に、ウイルス性肝炎に関して正しい知識を他職種に伝えることもできます。

SWや肝Coがいなくても、統一した説明ができるリーフレットの作成

相談室には様々な職種がいますが、患者さんへいつも同じ説明ができるようにしておきたいですね。全ての職員が、患者さんに分かりやすく説明ができるような資材を作成することもよいでしょう。

ジャンプ★★★

SWのネットワークで正しい知識の啓発

SWは医療機関や教育現場、介護現場、行政等いろいろな場所にいますが、肝炎に関する知識を得る機会は少ないものです。だからこそ、様々な現場にいるSWと肝炎の知識を共有することで多くの場所で正しい啓発ができ、偏見や差別などの解消にも役立てることができます。

SWの強み
「地域での顔の見える関係」を活かす

SWは、地域での関係機関との連携が多く「顔の見える関係」が構築しやすいことが強みです。それを活用して、肝炎に関する正しい知識や情報を伝えることができます！

医療職でもウイルス性肝炎に関する知識に差があるのが現状です。また、介護の現場でも、ウイルス性肝炎の患者さんが施設に入所する際や介護サービスを受ける際に、感染症であることで断られたり、差別的な扱いを受けるケースがあります。ケアマネジャーや介護サービス事業所等にウイルス性肝炎についての正しい知識を伝えることができたら、偏見や差別の解消にもつながります！

★治療と仕事の両立支援

肝癌の治療では、くり返し入院をすることも少なくありません。また、外来で通院しながら治療を行う場合もあります。働き盛りの世代では、治療と仕事の両立に悩まれる方もいます。そんな時は、患者さんの意向を聞いて、担当医と連携し、両立支援を行ったり、就労について産業保健総合支援センターや両立支援コーディネーターにつなぐこともあります。

多くの職種や、地域との連携が深いSWだからこそ、できる活動がきっとある！

先輩肝Co SWからのアドバイス

院内、院外に向けて自分の活動をアピールしよう！

どこに相談してよいかわからず、ずっと悩んでいる患者さんもいます。そんな方々に役立つ情報をお伝えし「思い切って相談してよかった」と言われたとき、肝Coの研修を受けてよかったと思いました！

知識を得ることは、モチベーションにつながる！

肝Coの研修を受けた後は、肝疾患に関する情報にアンテナが立つようになりました。知識が増えることが自分の成長や自信につながります！SWとしてのステップアップにおすすめです！

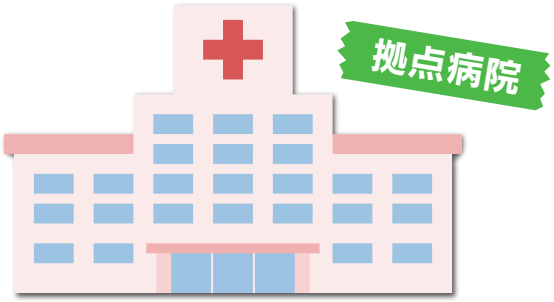
自信を持って活動しましょう!!

相談窓口にいると、自分の知識だけでは答えられないことも多くありますよね。わからないことは、それがわかる職種につなげればOKです!!私たちSWは、福祉の制度等の知識については他の職種より強みがあります。それぞれが強みを活かして患者さんのお役に立てることが何よりもやり甲斐につながります！自信をもって活動しましょう♪

医療費助成
制度のことなら
私にお任せ

疾患に関する
知識なら
私にお任せ

困った事例に遭遇したときは、
一人で解決しようと思わず、
拠点病院へつなげてください！



画像検査のプロ
「診療放射線技師」

検査について患者さんの
不安を解消します！

＼診療放射線技師ってこんなお仕事です！／

❶**各種検査の実施**…超音波検査（エコー）、レントゲン、MRI、CT、RIなどの画像検査を行います。肝炎・肝がん・脂肪性肝疾患患者さんの検査をすることも多いです。

❷**放射線治療や血管造影、TACE（肝動脈化学塞栓療法）等の治療メンバー**…毎回、患者さんとお会いするので、コミュニケーションを取る機会があります。

❸**市民公開講座、肝臓病教室の普及啓発**…院内・院外の啓発活動にも参加します。

❹**災害時には画像検査や被爆線量測定を実施するなどの活動もしています。**

＜放射線技師あるある＞肝Coバッジがつけられない！

金属で作られたバッジは、MRIなどに入る放射線技師は
つけられないんです…

診療放射線技師の肝Co 活動事例

はじめの第一歩!

腹部超音波検査でコミュニケーションを図り患者さんの不安を軽減する

診療放射線技師が関わる肝疾患の検査はCTやMRIなどたくさんありますが、なかでも腹部超音波検査は、個室で行い時間もかかるため、声をかけやすい環境にあります。コミュニケーションを図ることで、検査に対する不安を解消することができます。画像を見ながら脂肪性肝疾患に関して話をするきっかけにもなります。

こんな活動も!

検査の待ち時間を利用してできることもあります！

ホップ★

ポスターを掲示する

検査待ちの時間に見てもらえるよう、啓発ポスターを掲示！（定期検査につながるような内容だとより良いかもしれません）

検査の内容について説明をする

「検査」という言葉だけで患者さんは「検査で何がわかるの？」「痛い？」「どれくらいの時間がかかる？」と分からないことだらけで不安を感じるもの。そんな患者さんに検査について分かりやすく説明し、不安解消につなげることができるのが診療放射線技師の強みです！

ステップ★★

身近な医療者と連携するための人脈づくり

診療放射線技師だけで集まると情報が偏りがち。看護師や栄養士などと連携することで多職種とも情報を共有でき、自分の勉強にもなります。

コミュニケーションしながら、寄り添ったケアを提供

放射線治療やTACE（肝動脈化学塞栓療法）を受ける肝がんの患者さんは、多くの不安をもって治療を受けています。その際、スタッフがいつも声をかけることで、安心感につながることもあります。

ジャンプ★★★

院内・院外の啓発活動に参加する

肝臓病教室や市民公開講座に参加し、検査の必要性や内容について啓発します。イベントの場で実際に検査を行うこともあります。

診療放射線技師の強みを活かそう
肝炎は定期検査が重要！

活躍ポイント❶ 定期検査のドロップアウトを防ぐ

肝炎患者さんは治療中も、治療後も定期検査を継続しなければいけません。診療放射線技師は患者さんと顔見知りになりやすいです。ドロップアウトを防ぐための活動も私たちの大事な役割です！

定期検査を啓発するポスターを貼ることは、
診療放射線技師の業務と一致しますね！

活躍ポイント❷ 画像検査を通じて脂肪性肝疾患を啓発

脂肪性肝疾患が増えている今こそ、診療放射線技師の役割が重要です。脂肪性肝疾患が見つかった場合「どうしたらいいですか？」と聞かれることがあります。ただし、診断にかかわることは話せませんが、検査の必要性ならば説明できますよね。お伝えできる情報や渡せるチラシなどを用意しておくなど、事前に医師と連携しておくこともポイントです。

TVで
観たんだけど…
脂肪肝の検査って
できますか？

診断するには、
腹部エコー検査が
必要です

痛くない
検査ですよ

活躍ポイント❸ 整形外科の術前検査から精密検査へ

診療放射線技師は整形外科領域ではX線撮影検査等に携わる機会が多くあります。術前に肝炎ウイルス検査で陽性が判明しても、その後に精密検査を受けていない人がいます。そのような方々を受診へつなげる役割を担えるのではないでしょうか。また、骨密度測定は高齢者が多く、肝炎を啓発するチャンスを見つけやすいかもしれません。

先輩肝Coからのアドバイス

患者さんとのコミュニケーションのコツ

・「今日は定期の検査ですね」など、思い切って話しかけてみましょう。
・腹部超音波検査時は声かけの一番のチャンスです。
・検査の不安や疑問を解消し、落ち着くように声をかけましょう。
・チラシやパンフレットなどを用意して渡すこともコツです。

肝Coとしての活動を広げるコツ

・肝臓専門医と連携すると活動がしやすくなります。
・院内感染対策委員や医療安全委員会をきっかけに活動が広がる場合もあります。
・これをやってみたい！と声を出してみましょう。何かできることがないかみんなと一緒に話し合うことでチームとして活動ができるかもしれません。
・診療放射線技師会や患者会とのコラボレーションで活動が広がります。

**MRIや、CTなど閉鎖的な空間での検査を初めて受けられる患者さんはとても不安です。
検査の時間や、痛みがないことなど検査の詳細についてわかるチラシやパンフレットを用意して渡すことで患者さんの不安軽減につながります。**

肝Coの仲間を増やすコツ

・自分の活動を見て、肝Coの研修を受けてくれた後輩がいます。
・看護師や事務にも声をかけることで連携ができるようになりました。
・多職種とコラボして知識を増やせば、連携した活動がしやすくなります。

肝臓病教室・市民公開講座などで使えるネタ

・脂肪性肝疾患の画像を使ったクイズを出す。
・大画面でエコーの画像や最新の検査についてデモンストレーションする。

運動のスペシャリスト！
「理学療法士」

運動障害の予防や維持、回復に向け、オーダーメイドに対応できます！

人間の大切な基本動作「座る！立つ!! 歩く!!!」をサポートします。

理学療法士というと、リハビリテーションを思い浮かべる人も多いはず。入院患者さんなら退院後の自宅生活で困らないように、外来患者さんならば痛みや運動機能の不自由さを緩和し、現状よりもQOLを高めるサポートをします。

肝疾患の患者さんは入退院を繰り返す方が多く、筋力を落とさないこと、サルコペニアを予防・改善することはとても重要です。肝臓専門医と連携をとって早期から関わりを持つことが大切です。

＼理学療法士ってこんなお仕事です！／

❶**手術前、手術後のリハビリ**…早期離床を目指し、筋力の維持やバランスを保持するために重要なリハビリを行います。

❷**サルコペニア、筋力などの評価**…筋力の評価から、予防、回復まで個別に合わせたプランを作ります。

❸**廃用、運動障害に対するリハビリ**…脳梗塞や、呼吸器・心疾患患者さん、高齢者等のリハビリを行います。肝疾患の患者さんは高齢の方も多く、生活習慣病からくる運動器障害に対してリハビリを行う患者さんもいます。

❹**がんリハビリテーション・栄養サポートチーム（NST）**…がん患者さんのQOL向上をめざし、多職種と連携して進めます。

❺**啓発活動**…市民公開講座や高齢者向けの運動教室、啓発イベントに参加して、運動の大切さを伝えます。

理学療法士の活躍フィールド

病院　クリニック　介護・福祉施設　スポーツ施設　行政など

オリンピックなど、スポーツの現場でトレーナーとしても参加しています！

理学療法士の肝Co 活動事例

はじめの第一歩！ リハビリ中に肝炎の話題を持ちかける

患者さんと1対1で接する時間が長い理学療法士の特権を活かして、肝炎についての話をしましょう！

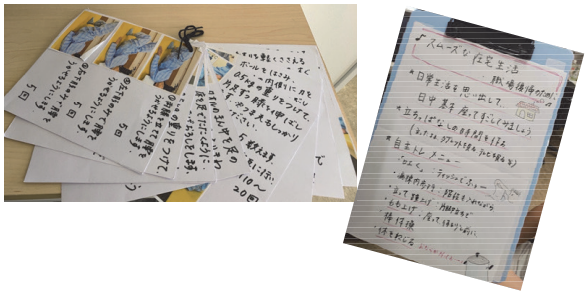
肝Coバッジが話のきっかけに！

こんな活動も！ ヘパトサイズを使って継続した運動支援につなげる

ホップ★

座ってできる運動のポスターを掲示

リハビリ室や待ち時間の長い場所などに、
座ってできる運動のポスターを掲示してみましょう。



運動のパンフレットを作成

自宅に帰ってからもリハビリができるよう、パンフレットを作成したときは、その患者さん向けの一言コメントを手書きで入れるだけでも、患者さんの安心感ややる気につながります。

ステップ★★

サルコペニアの評価と予防のための訓練

管理栄養士と連携して、運動と栄養の両面からサルコペニア予防に関わることもできます。

肝臓病教室で運動支援

生活習慣病の予防・改善のための運動療法は、チームを作って効率よく！肝臓病教室がなければ、管理栄養士と一緒に立ち上げましょう！

ジャンプ★★★

肝炎、脂肪性肝疾患などに対する運動の動画を制作

オリジナルの運動の動画を制作し、動画投稿サイトや
自施設のウェブサイトで公開することで広く啓発できます。

院外の啓発活動

市民公開講座、高齢者向けの健康教室等で肝炎について啓発したり
啓発のTシャツを着て、マラソン大会でＰＲした施設もあります！

これからは理学療法士の出番です！

　脂肪性肝疾患の大部分は生活習慣の乱れから起こるため、栄養療法・運動療法が治療の基本です。肝臓病教室や糖尿病教室等の集団支援の場で多くの方に運動の大切さを伝えましょう。

肝Coの研修を受けたからこそ気づくことができました！

肝疾患と筋肉量や質は密接に関わるため、肝疾患の患者さんでは筋肉量を維持し、質を良くすることがとても重要です。理学療法士として行う通常業務に筋力評価があります。これはサルコペニアの評価につながりますね。すなわち、通常業務の延長線上で理学療法士は肝Coとしての活躍ができているのです！！

肝臓リハビリテーションについて

2023年4月　日本肝臓学会より、肝臓リハビリテーション指針が策定されました。その目的は、脂肪性肝疾患や肝硬変、肝癌の合併症を予防し症状を軽減することにより、患者の予後と生活の質（QOL）を改善することです。今後は肝臓専門医の指導の下、多職種と連携しながら理学療法士は重要な役割を担っていくでしょう。

達成感を一緒に味わうことで、患者さんがやる気に

患者さんのやる気を起こすには「なぜ運動が必要か」を理解していただくことが大切です。そのうえで、運動が苦手な人もやってみることで身体機能が改善し「やってよかった！」といわれることも多いです。

肝Coの研修を受けることがスタートライン

一緒に活動できる仲間づくりをはじめましょう

まだまだ理学療法士の肝Coは人数が少ないですが、これからとても重要な役割となっていきます。まずは同僚から、そして理学療法士会や同じ施設の他職種に肝Coの活動を紹介し、一緒に活動できる仲間を増やしましょう。
みんなで活動できたら、楽しいですし、モチベーションアップにもつながります。

医師、看護師、薬剤師、栄養士や、院外のケアマネジャー、訪問看護師、かかりつけ医などと連携を取るときに、肝Coの研修を受けることを勧めてみては？

＼理学療法士が肝Coの研修を受けてよかったこと！／

学生時代には、肝臓と運動の関係について学ぶ機会がなく、肝Coの研修を受けて、肝臓と運動に深いかかわりがあることを学びました。肝臓の知識が増えたことによって、倦怠感がある、足がつりやすいなどの症状に目を向けられるようになり、倦怠感がある患者さんには「こんな運動ならできますか？」と個別に対応できるようになりました。

市民公開講座で運動について話す機会がありました。その後、新聞や患者会から多くの問い合わせをいただき、肝Coとして理学療法士の役割が重要である事を痛感しました。

他の病院の肝Coと知り合うことができ、事例を共有することによって活動の幅が広がります。

患者さんが最も声をかけやすい
「事務職」

受付業務に就いています。
病院に来られた患者さんに、最初と
最後に出会う職種なので、笑顔を
心がけています！

事務職は患者さんにとって一番身近な職種です

受付事務

健診機関の受付は検査を勧めたり、二次健診につなげやすいです！

医事課

助成制度についての理解を深めやすい立場です！

医師事務作業補助者

医師の近くにいて、確認が取りやすい立場であることを活かせますね！

診療情報管理士

日々の診療情報からのデータを整理分析することでお役に立てます。

それぞれの事務職が持っている知識と多くの機会を生かしてできる肝Co活動がたくさんあります！多職種と連携することで大きな活動にもつながります。つなげ先をたくさん知っていることが強みです。

事務職の肝Co 活動事例

はじめの第一歩！

患者さんの話を聞き、必要な人や場所につなげることができます。

事務職の中でも、受付担当であれば、病院に来られた患者さんに最初と最後に会う機会があります。忙しそうな医師や看護師には聞くことができなかったことを、受付事務には気軽に聞けることもあります。このとき、患者さんの本音の思いに耳を傾け、必要に応じて他職種につなげるという大事な役割を担っています！

こんな活動も！

何か気になることはありますか？

ホップ★

肝炎ウイルス検査の受検に関するポスターを掲示し、声かけをする

すべての患者さんに受検勧奨の声かけをするのは大変なので、まずはポスターを貼って情報提供を行いましょう。しかし、患者さんは、自分が対象かどうかは判断しにくいので、問診やカルテなどから未受検者をみつけた際は、できるだけ声をかけましょう。

公費助成制度があることを伝える

助成制度を知らない患者さんもいます。制度の詳しい説明には自信がなくても、まずは制度があることを伝えるだけでもOKです！助成対象になる可能性があれば、制度に詳しい窓口を紹介しましょう。

ステップ★★

公費助成制度について詳細を伝える

請求業務に携わっていれば、制度について学んだり、必要書類、提出場所などの情報に触れる機会も多いはず。助成制度についてより詳しく調べることで、患者さんの負担を軽減できる情報を提供できるかもしれません。肝Coとしてのステップアップにもつながりますね。

対象者の拾い上げ

未受検者、未受診者、定期検査の未受診者、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の対象者を拾い上げ、積極的に声をかけていきましょう。

ジャンプ★★★

自分がいなくても説明できるようにリーフレットを作成する

肝Coとして他の人に頼りにされることは嬉しいことですが、自分が毎回対応できない場合もあります。そんなとき、誰でも説明できるわかりやすいリーフレットがあると便利です。自分で作成できないときは、拠点病院に相談してみましょう。その際にはぜひ事務目線で必要な情報を伝えてくださいね。

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業は事務職が決め手！

助成制度によって患者さんの生活の負担が大きく軽減されることがあります。

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業を理解するのが難しいと思う方も多いと思います。しかし、この制度のキーパーソンは、事務職です！多職種と連携し、制度利用を勧めましょう！

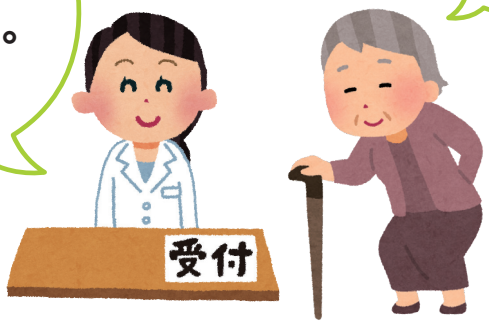
このような連携で制度利用を勧めている施設もあります

医事課 → **肝臓専門医** → **看護師・事務** → **医事課**

- 医事課：
  - 使用中の薬剤や病名、通院、入院回数、高額療養費に該当するか、所得区分などから対象者を抽出
- 肝臓専門医：
  - 対象疾患の確認
  - 肝炎ウイルスに起因するかの確認
  - 臨床調査個人票の作成
- 看護師・事務：
  - 制度説明と同意書取得
- 医事課：
  - 医療記録票の記載

公費助成制度の詳細を知ることで、患者さんの負担軽減につながる場合があります。もし制度について自信がない時は、**詳細を知っている人や都道府県の担当部署へバトンタッチ**をしましょう！

患者さんに必要な情報を伝えることができ、感謝の言葉や喜びの笑顔をもらえたら、大きなモチベーションになります！



こんにちは！
○○さん
今日も治療
がんばっていますね。
受給者証は
お持ちですか？

今回も
よろしくね

いつも同じ人が
声をかけてくれるから
安心感があるわ

先輩肝Coからのアドバイス

肝Coの研修を受ける前も、事務の仕事として制度の説明を行っていました。ですが、肝Coの研修を受け、**自分が知識をつけていくことで、説明に自信がつき、その自信が患者さんの安心につながっている**気がします。また自分のモチベーションにもつながっています！**説明の回数を重ねることで自信が持てますよ。**

施設に１人しか肝Coがいません。すべてを１人でやらなければいけないので大変なこともありますが、合間合間でできることをやっています。わからないときは医師に相談していますし、拠点病院や県の担当部署と連携をとって活動しています。**利用できるものは全部利用しちゃいましょう！**１人で管理すると情報の把握はしやすいですが、**活動の幅を広げるために仲間作りは必要です。**

高齢者にとって移動手段は大きな問題の一つ。家族と連携して制度の利用につなげられたこともあります。患者さんや医師から頼りにされたり「こんな制度があったのか」と患者さんに喜ばれることがとてもうれしいです！**拾い上げは大変ですが、努力が報われます。**

一生懸命に肝Co活動に取り組む姿は、他の人の「手伝おう」「自分も肝Coになろう」という意欲につながります。

あなたの活動はきっと誰かが見ていますよ！

職域・家庭から医療機関への架け橋
「健診機関」

健診は、肝炎ウイルスの受検・受診・受療をしていない人、医療機関から離れてしまった人を地域や職域から医療機関へつなげることができる場です！

症状がない…

費用が心配…

検査が不安…

時間がない…

精密検査には行かれましたか？

健診機関には多職種がいます！連携でつなげていきましょう！

医師、保健師、看護師、栄養士、運動指導士、臨床心理士、放射線技師、臨床検査技師、事務、営業、運転手など

＼健診機関ではこんなお仕事をしています！／

❶**健診業務**…住民健診、企業健診、人間ドックなどの健診業務を担っています。自施設の健診施設で行うこともあれば、バスなどで巡回健診を行うこともあります。

❷**産業医活動**…産業医活動の中で、企業や労働者に向けて肝炎ウイルス検査の重要性を伝えたり、相談に応じることがあります。

❸**特定保健指導、事後指導**…特定保健指導や健診結果に合わせた事後指導を行います（全員が対象とは限らず、企業などとの契約によります）

❹**健康についての講話**…企業の安全衛生委員会や社内教育などで、健康についての講話をする際、肝臓の話（肝炎ウイルス検査の受検勧奨など）をトピックスに入れることがあります。

❺**企業への提案・契約**…企業などに健康診断を提案し、ニーズがあれば契約を行います。肝炎ウイルス検査は労働安全衛生法の必須項目に入っていませんが、オプションとして実施できることを説明し、提案することがあります。

健診機関の肝Co 活動事例

はじめの第一歩！

検査結果をきっかけに
肝機能が気になる人に声をかける！

＜声かけのタイミング＞
- 健診の受付や問診中に
- 健診結果に気になる点があるとき
- 保健指導のとき
  （生活習慣病に関連して肝臓の話も）

自己中断している患者さんや肝炎ウイルス検査未受検、未受診者を見つけることにつながります！

声かけの際は、声の大きさなど周りに聞こえないよう配慮しましょう！

どんなアプローチをしていますか？

受付で肝炎ウイルス検査を受けたことがあるかをお聞きして、受けていない方には検査を勧めます！

肝疾患専門病院の受診を勧めるだけなら活動のハードルは低いですよね。拠点病院の相談窓口をよく紹介しています。

問診時に、受診や受療、定期検査を中断してしまっているなどの情報を得たら、肝臓専門医を受診するよう勧めています。

C型肝炎ウイルスのインターフェロン治療でうまくいかなかった人は、副作用の少ない新しい飲み薬があることを伝えることで、治療の再開のための受診を勧めやすくなります。

医療機関の併設の健診機関なので、肝炎ウイルス検査が陽性の場合は、検査室からすぐに健診機関へ通知が来るようになっています。その日の診察時に医師から必ず説明してもらいます。その後、精密検査の予約を取るか、自宅近くの肝臓専門医を紹介しています。

人間ドックの方は健康意識が高く、比較的時間の余裕があるので、当日の結果説明時に肝炎についてのお話がしやすいですね。

こんな活動も！

仕事の延長線上でできる活動がたくさんあります！

ホップ★

ポスターやチラシは文字が少なく
目を引くデザインを！

ポスターやチラシでPR

健診会場に肝炎に関するポスターを貼ったり、事前問診や健診結果に肝炎に関するチラシを封入することでPRしましょう！

肝炎ウイルス検査を勧める！！

健診は、肝炎ウイルス検査を受けられる絶好の機会です！このチャンスを逃さないように未受検者には検査を勧めてみましょう！健保組合や自治体が、肝炎ウイルス検査費用を負担している場合もあります。是非活用してみてください。

肝臓専門医のいる医療機関リストを用意する

健診結果から精密検査へつなげる際は、肝臓専門医の一覧を用意しておくと自宅近くの専門医を紹介でき、便利です。専門医の一覧は学会のホームページや肝疾患連携拠点病院から情報を得ることができます。

ステップ★★

受診勧奨の電話をする

肝炎ウイルス検査結果の通知は個人に送られます。受診されていない方に対し、電話をして受診へつなげる活動をしている施設もあります。

ジャンプ★★★

企業へ啓発をする

企業に訪問する際に、啓発の機会を見つけましょう！安全衛生委員会など、肝炎について話せる場があるかもしれません。

企業の担当者に対して「肝炎ウイルス検査の陽性者が精密検査を受けられる組織づくり」について話をしてみては？
肝炎の正しい知識を伝えることは偏見差別の防止にもつながると思います。

地域の保健師と情報共有する

住民健診では、市町村の保健師と連携できると、地域での働きかけができるようになります！

先輩肝Coからのアドバイス

陽性者が毎年健診を受けるからこそ
繰り返しアプローチできます！！

精密検査は
受けましたか？

あ！忘れていました。
必ず受けます！

直接お話をして、検査の意味や受診の必要性を理解してもらいましょう！

繰り返しのアプローチで受診につながることもあります。受診までのステップを詳しく説明することで、受診につながりやすくなります。

特に肝Coの研修を受けてほしい職種

事務職

受付担当の方は、ぜひ肝Coの研修を受けてほしいです。
なぜなら「肝炎ウイルス検査を受けるか／受けないか」の最初の声かけに関わってくるからです。
事務の管理職に肝Coの研修を受けてもらえると、他の事務スタッフにも肝Coの研修を勧めやすくなるかもしれませんね！

営業職

営業スタッフには、肝炎ウイルス検査の重要性をよく理解した上で、企業の担当者に健診項目への追加を提案してもらいたいです。肝Coの研修を受けると、より説得力も増します。

健診機関は職域・地域から医療機関へつなぐ架け橋であり、肝Co活動のチャンスが多い場所です。
健診機関で働く人すべてに肝Coの研修を受けてほしいです！

健診機関内で肝Co仲間を増やして、みんなで楽しく活動しましょう！

体験者は説得力が違います
「肝炎患者さん」

患者自身だからこそ言える言葉があります。
※肝Coになった患者さん（患者肝炎医療コーディネーター）
＝患肝Co（かんかんこ）

実際に肝炎を体験しているからこそ
「生の話」「生の声」が強く響きます！

患者さんも一緒に肝Coになって活動をしませんか？

先輩患肝Coに聞きました！

患肝Coになるのは、自分のためでもあります！今まで知らなかったことを知識として知ることが、自分自身の役に立つことがありました。

どこに肝Coがいるか分からないという患者さんは多くいらっしゃいます。もっと身近な相談相手として認識してもらうためには、どんどん肝Coを増やさないといけないのではと思います。

1回でも肝Coの養成研修を受けて「肝炎ってこういう病気なんだ」と少しでも考えるチャンスがあったなら、それだけでもすごく大きいことだと思います。

そもそも患者会の活動自体が肝Co活動のようなものですよね。「それも活動だよ」と言われると自信が持てます！

患者さんの肝Co（患肝Co）活動事例①

はじめの第一歩！

自分の体験を話す

ピアサポートの場や研修会、教育機関などで患者としての体験を話すことは、聞き手に大きなインパクトを与えることができます。具体的に「患者として何を感じたか」を伝えるようにすると、大きな共感を得られます。大きな場面でなくても、自分の身近な人、未治療者の方と接した時そんな場面でもあなたの経験が生かせます。

B型肝炎であることを友人に話したら、距離を置かれました。
でも、患者支援活動をしていることを話したら、感動してくれて、付き合いが再開したんです。

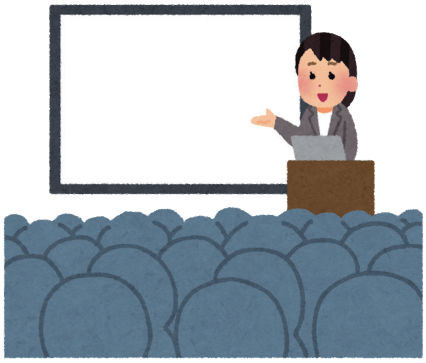
医者と対面している患者は「治療だけじゃなく、残りの人生をどう生きるんだ」というところまで考えています。医療者にはこのような気持ちを知ってもらいたい。

いつも講演の最後に、皆さんに「肝Coになってね」とお願いしています！

近年のSDGsの流れもあって、人権擁護、偏見差別の話をするのが求められているように思います。

学生だけではなく、教員の方にもよく知っていただけるよう、事前の打ち合わせをしっかり行うようにしています。

薬害の被害者なのに、偏見差別で苦しんでいるなんて本当にあるんだ（泣）



患者さんの想いを知れたことは、きっと自分の人生のプラスになる。

患者さんの肝Co（患肝Co）活動事例②

ホップ★

世界肝炎デーのイベントなどへの参加

地域の拠点病院などが行うイベントで、チラシ配りなど一緒に参加をすると、医療者と知り合いになり、一緒に活動しやすくなります。

身近な人に肝炎ウイルス検査をすすめる

自分の経験があるからこそ話せる内容があります。未受検者に肝炎ウイルス検査をすすめる、未治療者を治療にすすめる、あなたの声掛けで救える命があります。

ステップ★★

患者会活動・ピアサポート活動

対面でも電話でも、患者さん同士が語り、相談に乗ることで、その人の疑問や悩み、モヤモヤした気持ちの解消につながります。人と話すと頭が整理されますし、満足していただけることが多いですよ。雑談するだけで安心される方もいらっしゃいます。

※ピアサポートとは
同じ経験を有する患者・家族等が相談に応じ、お互いに支え合うこと。

「先生に言い忘れたことがあるんだけど、どうしよう」という電話相談は多いです。肝Co活動がもっと広がっていけば、こういった悩みを減らせるはずですよね！

こんな活動も！

病院の専門外来の近くで、患者さんが直接、患肝Coに相談できるブースを設置する試みも始まっています！

ジャンプ★★★

学会発表

患者として肝Co活動を行った経験を、肝臓学会などで発表することもできます。

患者さんにしか言えないことがあります

**治療を受けることを迷っている肝炎患者さんもおられます。
そんな患者さんの背中を押すために、患肝Coだからこそ言えること、伝えられることがあるのではないでしょうか？**

私は死にたくなかったから治療をした。同じ病室で隣で寝ていた人が亡くなった経験を何回もしているから、とにかく治したいという気持ちが強かったんです。

ただ、注意が必要です。自分の経験からお話をするのはよいですが、すべての患者さんにあてはまるわけではありません。患肝Coは医療者ではないことを理解し相談に乗ることが大事になると思います。

患肝Coから医療者への望む事

**肝炎は慢性疾患なので、メンタルが少し弱ったり、感染症だからと、独りぼっちで孤立してしまう人もいます。
だから、声をかけられるだけで本当にうれしいのです！**

\まずは　先手挨拶!!　身近な話題から話かけてみましょう！/

❶**名前を呼ばれること**…下の名前まで呼ばれたら嬉しすぎます！
こんなに患者がいるのに覚えてくれているなんてありがたいです。

❷**先に挨拶をしてくれること**…名前を呼んで挨拶をしてくれるだけで嬉しいものです。

❸**握手してくれること**…治療の開始時など「一緒に頑張りましょう」と言われて握手されたら前向きに頑張れます。

❹**以前のことを覚えていて、話題にしてもらうこと**…過去のことを思い出して「以前は何々でしたよね」や「まだあの趣味をやっていますか？」など、自分のことに関心を持っているような話題を振ってくれるととても嬉しいです！

❺**ちょっとしたことをカルテに記録してくれていること**…以前の受診で話したちょっとしたこともカルテに書いていることに気づくと、嬉しくなります。カルテを打ち込んだ後に、向き合って顔を見て話を聞いてくれると、もっと嬉しいです！

❻**コミュニケーションが大事**…「何かのきっかけがないと」「有用な情報を伝えなければ」、「全部答えなきゃいけない」など気負わなくていいんです！

\ 患者さんと医師がフェアな関係でいるための支援を /

近年、医師が患者さんの治療方針を決めて一方的に指示するのではなく、医師と患者さんが対等に話し合って方針を決めていく場面も見られるようになってきました。
とはいえ、これまで医師に治療をお任せしていた高齢者などは、すぐに対応できないものです。「自分で決めるなんてできない！」と困ってしまう人も少なくありません。
このようなときに、患肝Coが医師と患者さんの間に立って、話し合いができるようにサポートできるといいですよね！

制度のプロ！
「行政担当者」

施策の立案など「肝疾患対策の基本」を担っています。

制度について聞かれたら、行政にバトンを渡してください！

＼行政ではこんなお仕事をしています！／

行政は国、都道府県、市町村、県の関連機関等と幅広いです。

＜都道府県＞

❶**肝疾患対策の立案と実施**…肝疾患の状況を把握し、様々な検討（目標・実施計画・予算など）を行いながら施策を立案し、関係機関と連携して事業を実施します。

❷**肝疾患の啓発**…肝炎ウイルス検査未受検者、精密検査未受診者、未治療者を拾い上げ、適切な治療につなげるため、肝疾患に関する啓発活動（広報、肝炎ウイルス検査の無料実施など）を行います。

❸**肝疾患に係る制度の周知**…新たな制度などについて、市町村、拠点病院、一般の医療機関、肝Coなどに周知します。また、住民向けにわかりやすいホームページやリーフレットなどの資材を作成します。

❹**研修会の実施**…肝Coの養成研修会やスキルアップ研修会、医療機関に対する肝疾患に関する研修会等を実施します。肝Co同士がつながれる機会を作ったり、活動の周知等を行います。

＜市町村＞

母子保健事業や特定健診の場などで、幅広い年代の方に直接声をかけることができます。その際に肝炎ウイルス検査を勧めたり、情報を得て、受検、受診、受療につなげることができます。

＜保健所＞

市町村と連携しながら、肝炎に関する普及啓発や研修会を実施します。また医療費助成制度等の窓口でもあり、肝炎ウイルス検査の実施なども行っています。

（原則初回は無料、一部の市町村では有料）

行政担当者の肝Co 活動事例

はじめの第一歩!

拠点病院に積極的に顔を出す

行政の強みは、関係機関との調整や連携を構築できることです。肝疾患対策を進めるにあたり、拠点病院との連携はとても重要です。一般の医療機関、関連機関などにも積極的に顔を出して「顔の見える関係」を作りましょう！

こんな活動も!

キャラクターの作成

イメージの付きやすいキャラクターや肝Coの目印となるバッジは啓発に効果的です!

ホップ★

制度について説明する

肝疾患に関する制度は数多く、複雑なので、肝Coがすべてを把握するのは大変です。制度について聞かれて困ったときには、行政担当者にバトンを渡すように伝えましょう。

啓発資材をつくる

お堅い表現にならず、わかりやすい資材を作るために、肝Coの意見や、患者さんの意見も取り入れましょう！

啓発資材の活用

住民健診などで保健指導を行う際に肝Co養成講習会の資料や都道府県・拠点病院が作成した啓発資料を利用して健診結果や助成制度等を説明しましょう！

ステップ★★

養成研修会やスキルアップ研修会の開催

WEBの普及に伴い、今まで参加が難しかった方も研修会に参加しやすくなりました。講義形式の研修会だけではなく、実際の活動に即した事例検討会を行うと、より肝Coの活動が促進され、横のつながりが深まります。準備から拠点病院と連携するのがおすすめです。

地域医療との連携

地域の専門医療機関や地区医師会の専門医との連携を密にして、患者さんを専門医へ紹介しやすい環境を整えていきましょう!

ジャンプ★★★

施策などに肝Coの意見を取り入れる

施策は行政だけで検討していると思いますが、問題がどこにあるのか、どのようなアプローチが必要なのか、現場の声を反映させてみてはいかがでしょうか。

企業などへの啓発

出張肝炎ウイルス検査や肝臓病教室など、企業に向けて行う活動もあります。働き盛りの方はなかなか時間が取れません。そのような方へ職域では受検や受療を勧めることができる有用な場所です。治療と仕事の両立支援のサポートを行ったり、取り組みの優良な企業を表彰することで対策が進むこともあります。職域肝Coを配置するのもコツです。

患者さんへのサポート体制の構築

医療費助成に係る住民票や課税証明などの交付手続きを簡略化したり、手数料を減免するなど、保健指導だけでなく、行政の立場で患者さんをサポートする体制づくりを検討してみましょう!

いかに肝Co活動を把握し、活動のヒントを伝えるか？

都道府県の肝疾患担当者が、市町村の肝疾患担当の活動や、都道府県全体の肝Coの活動を把握するのは難しいため、研修会等の情報共有の場を設けることが重要です。
肝Co側から行政に活動報告をする仕組みを作ったり、世界肝炎デーなどのイベント時に活動をLINEなどのSNSに投稿し、活動内容の共有をしている県もあります。

肝Coから行政へのニーズ

職種毎に強みが違うので、できる活動も様々です。同じ職種同士の意見交換の場は、同じ目線、同じ考えだからこそ共感や、モチベーションアップにもつながります。同じ職種の肝Coと連携できる機会や、情報を発信してください。また他の職種の取り組みを知ることで連携のきっかけにもなります。

患者さんに説明するための現場で使える資材がたくさんほしいです！

行政担当者からのお願い

私たち行政（都道府県）は肝Coを養成し、活動を支援する事が役目ですから、活動しやすい環境や体制を整える支援をしたいと考えています。しかし、現場での活動や何が困っているのか、どんな資材が必要なのか等、把握できていないのが現状です。ぜひ肝Coの声を聞かせてください！

忙しい業務の中で複雑な制度を案内するのは大変ですよね。そんな時はぜひ、行政と患者さんを結ぶ懸け橋となって私たちに患者さんをつないでください。

最新情報を迅速に正しく伝えることの難しさ

新しい制度が導入された際は、情報をいかに迅速かつ正確に周知することが肝要です。最近は、多くの手段を用いて情報発信ができる時代となりました。YouTube配信などを活用している県もあります。肝Coが増えるにつれて、情報発信の方法も検討していく必要もありますね。

先輩肝Coからのアドバイス

肝疾患の担当になったら、まずは**肝Co**の研修を受けることをお勧めします。
肝炎に関する知識だけでなく、横のつながりができるきっかけにもなります。

行政は異動が多いですが、肝疾患の部署だけしか活動ができないわけではありません。さまざまな課で、そこでしかできない活動がきっとあるはずです。行政同士だからこそ連携がしやすいのも強みです。肝Coの知識を活かした活動を継続してみてはどうでしょうか？例えば、精神福祉センターの職員と協働し、アルコール疾患への取り組みを行っている県もあります。

所属	肝Coが関与できる健康施策業務
母子関係	妊婦を通じた保健指導
子供関連	保育園などでのHBV感染予防
医務感染症関連	肝炎医療費助成、検査費の助成、ワクチン接種
精神保健関連	肝疾患患者のメンタル支援、アルコール関連対策
健康政策関連	健康施策の立案、地域包括連携による支援
職員関連	職員の健康管理
教育関連	教職員の健康管理、小中高生への教育

実際の特定保健指導などの事例検討会を開催し、拠点病院の医師からアドバイスをいただきました。お互いの活動も知ることができますし、次からの指導へ活かせますよ。

自県だけでなく、他県の取り組みも知りたいですよね。
他県より相談の電話があっても県を越えての情報共有は難しいものです。行政が中心でやることが難しければ、拠点病院やメーカーさんの協力を得て近くの県同士で研修会やイベントなどを行っているところもありますよ！

肝疾患対策への予算付けは毎年頭を悩ませます。特にウイルス性肝炎が減少している昨今では特に難しくなってきましたよね。しかし、肝疾患対策として行うべき事業もありますので、日頃から拠点病院との連携を大事にしましょう。

全国72カ所の拠点病院にいる
※R5年1月1日時点

「相談員」

患者さん、家族、肝Coの皆さんの相談に乗ります！

現場にいるからこそ、現場に即した活動を考えることができます。
自分の働く姿を直接スタッフが見ることで後任が育ったり、周りの理解も得られやすいです！

兼任相談員

専任だからこそ時間を使ってイベントの企画から肝疾患対策まで力を注ぐことができます！

専任相談員

仕事をしながらイベントの企画などをするのは、とても大変です…

現場のことが分かりにくいため、相談対応に迷ったり、自分が肝Coを養成する立場でよいのか不安になることもあります…

＼相談員はこんな仕事をしています！／

❶**肝疾患に関する相談業務**…相談窓口を設置し、電話やメール、面談などで肝疾患に係る相談を受け付けています。患者さんはもちろん、肝Coや医療従事者からの相談にも対応します。

❷**地域の肝疾患対策**…行政と連携しながら地域の肝疾患対策を行っています。

❸**啓発イベント・市民公開講座・研修会の企画運営**…世界肝炎デーなどのイベントの企画、肝炎啓発の事業を行います。事業計画から、予算立て、行政との連絡調整まで幅広い仕事を担っています。

❹**肝Co養成研修会の企画運営の一部**…肝Coの養成やサポートなどを行政と協力して行っています。

❺**患者さんの支援**…肝疾患で悩まれている患者さんのサポートを行います。

相談員の肝Co 活動事例

はじめの第一歩!

まずは電話を取って、患者さんの話をじっくり聞くことから始めよう！

今はバリバリに活躍している先輩も、相談員になったばかりの時はドキドキで、相談を聞いても言葉がわからない、単語が聞き取れない…不安で不安で仕方ありませんでした。
でも、何度も相談を受けたり、研修会の議事録を書いたりしているうちに慣れていきますよ。

先輩相談員のアドバイス～相談を受けるコツ～

相談者が聞きたいこと、知りたいことを理解する

電話をかけてきた方の話をゆっくり聞いて、何度も聞き返しながら、何を求めているのかを正しく理解しましょう。つい、聞かなければいけないことを初めに聞きたくなりますが、そこはじっと我慢です!

あせってその場で答える必要はありません！

自分一人で完結しようとしなくて大丈夫です。相談者は正しい情報を知りたいと思っています。話を聞く中で、すぐに回答すべきか、そうでないか、だんだんと分かってきます。分からないことは「私では答えられないので分かる方につなぎますね」で良いのです。

肝疾患相談支援システムの活用

相談支援システムは、相談に困ったときのお助けシステム。全国の相談員がどのように答えているのか、相談に悩んだときに質問もできます。ぜひ利用しましょう！

まずは助成制度など決まっていることから勉強する

疾患や薬についてなど幅広い専門知識に関しては勉強するのは大変です。ですが、公費助成制度は決まっていることなので、一度勉強しておけば、自分でも解決できる領域が増えますよ。

一人ロールプレイング

相談があった後「こう言えばよかった」など反省することも多いはず。だからこそ、今度同じ質問があったときはこう答えてみようと、自分なりのシナリオを作り、ロールプレイを行ってみましょう。

相談できる人であることをアピール

病棟に訪問する機会があったら、まずはこちらから挨拶してみましょう。慣れてくると、患者さんが何か言いたそうだなというアンテナが立ってきます。いつもここにいる人、このバッジをつけている人は肝臓の相談ができる人だと、患者さんだけでなく、医療者にも知っていただくことが重要です。

待っているだけでなく、自分から病棟などに出向くことで、相談者と直に接して悩みを聞けるようになって、モチベーションが上がりました。

こんな時はどうする？

どうしても外向きの活動が多く、拠点病院内部の活動ができていません。拠点病院にいても肝疾患センターを知らない、相談などを受けていることも知らないようで…**拠点病院内でのセンターの認知度を上げたい…**

肝疾患センターの認知度アップ作戦！

- ☑ 「肝臓」「肝炎」「訴訟」「助成制度」「脂肪肝」「アルコール」といったようなキーワードの相談があったらこちらに回してくださいと、関連しそうな部署やオペレータなど院内に周知した
- ☑ 肝疾患センターの相談窓口の案内を全ての科の診察室に設置した
- ☑ 院内のニュースレターに活動を記載し、関係ないと思われる部署まで配布した
- ☑ 院内のWEB講演会で肝疾患に関する講義を行い、周知した
- ☑ 院内で肝臓病教室を開催し、多くの方が参加できるように案内した
- ☑ 肝Coの研修を受けてない職員に研修会に参加してもらった
- ☑ 拠点病院だからこそ、肝臓専門医の力を借り、院内全体に存在を周知してもらえるようにアピールした

こんな時はどうする？

拠点病院だからこそ、最新の知識が必要。
最新の知識を更新するには？

最新の知識を更新する機会

①肝疾患診療連携拠点病院間連絡協議会

②学会

最新情報を得るには学会が最適！難しい内容もありますが、徐々に耳慣れしてきます。最近では、メディカルスタッフセッションが開催されており、拠点病院や肝Coの活動が共有されますので、要チェックです！

③市民公開講座や医療従事者研修会

講座や研修会に積極的に参加して知識をアップデートしています。

④回診や診察

実際の患者さんに説明している場を見ることも学びになります。

⑤肝臓病教室

自分の勉強にもつながる肝臓病教室。継続することで関わるスタッフと一緒に成長できます。

肝Coの養成やサポートも大きな役割の一つ

情報共有でお互いが
WIN・WINになれるはず

クリニックの実際の活動がわからず、独りよがりの資材などを作っていないか心配です…

現場で使える資材が欲しいけど、自分たちのところで使える資材がないし、作る予算もありません…

肝Coが何を求めているのか？悩みを解決できるように相談先になるのも拠点病院としての役割の一つです。活動に悩む肝Coはたくさんいます。実際の肝Coの声を聴く機会を設けましょう。職種毎に意見交換をしてみることをお勧めします。

施設や職種でやり方は変わるので、活動のすべてを伝えることはできません。拠点病院は「**活動のヒント**」をお伝えし、肝Coに自考してもらうことも重要なのではないでしょうか？

肝Co活動を認めること

特に施設内に他に肝Coがいない場合は、自分の活動はこれでよいのか、悩んでいる肝Coが多いです。できている活動を褒め、認めてあげることで活動のモチベーションにつながります。

肝Coとは、コーディネートすること

肝Coはコーディネートすることがお仕事。つまりつなげることが活動の大きな要です。自分ですべて解決しようとしなくて大丈夫です。そして自分の強みでできることは、つなげ先として活動しましょう。あなたの強みが患者さんの役に立ちます。

資材を作ろう！

現場の意見を活かした資材を作りましょう。その資材をどこで・どのように活用するのかまで説明すると、活動促進につながります。

全国３万人の肝Coが年１回活動したら、３万回の活動ができるんです！
気負いすぎず、できる活動から勧めてみては？

患者さんの一番近くにいる存在！
「看護師」

看護師は、疾患、治療、生活支援、連携、制度等、オールマイティにかかわる職種です。

すべてを完全にしなければと思っていませんか？
強みを持つ職種につなげる架け橋と、患者さんの気持ちを代弁する翻訳者としての役割でも十分な活動です！

看護師はそれぞれの立ち位置で、活躍できる機会をたくさん見つけられる職種です！

管理者

外来

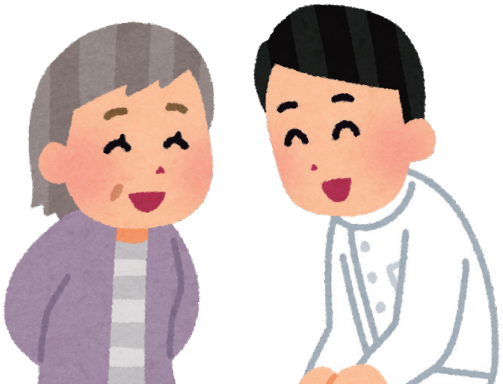
病棟

それぞれが自分の立場でできることをまずは考えてみましょう！！

看護師の強みと肝Co活動は相性がいい

「聞かれたことにすべて答えなければ失格」なんて思っていませんか？私たちは「コーディネーター」であり、**患者さんのために架け橋となる存在**です。わからないことは、適切な専門職につなげることが重要です。連携することで自分の知識も増えていき、次に聞かれたときには答えられるようになっているかもしれません。**まずは一歩動くことが成長につながっていきますよ！**

看護師も肝Coも患者さんの気持ちや疑問、ニーズを汲み、適切な場所につなげる架け橋の役割



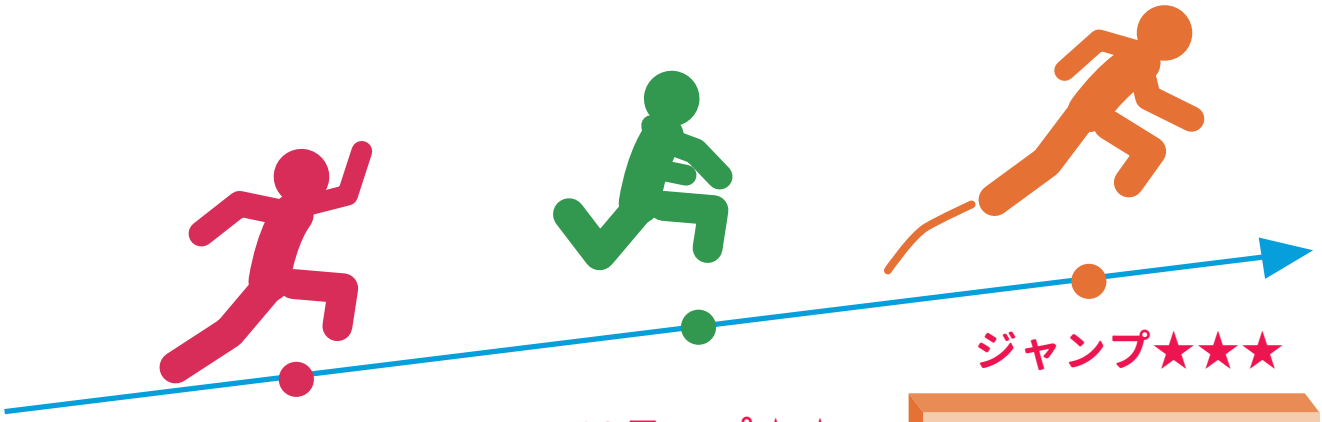
看護師が肝Coになったきっかけ

肝臓専門の部署に配属され、知識の取得やアップデートをするために肝Coの研修を受けたという方が多いようです。
得られた知識は自分の付加価値となり、患者さんにきちんと説明ができるという自信につながります。きっかけは何であれ、医療者として向上心をもってかかわることが私たちの使命です。

患者さんやスタッフから存在を認められ、頼りにされるとモチベーションが上がりますよね！

肝炎ウイルス検査からつながる肝Co活動

看護師は業務中に数多くの患者さんのカルテを目にする職種です。カルテに記載されている肝炎ウイルス検査をチェックする習慣を付ければ、そこから肝Co活動を広げていくことができます！



ホップ★

肝炎ウイルス検査の結果を確認

- カルテを見るときは必ず肝炎ウイルス検査を確認！
- 化学療法や免疫抑制剤の治療を受ける前は、必ずHBV再活性化リスクのチェックを！

ステップ★★

肝炎ウイルス検査の結果通知

- 陰性でも必ず本人に伝える
- 陽性者は必ず状況を把握し、受診が必要かを判断する
- 必ず肝臓専門医へつなげる

ジャンプ★★★

他の診療科や専門職へ連携

- 外来、病棟間、化学療法室、透析室等と連携し、継続的にフォローする
- 多職種との連携を図ることで患者さんに寄り添ったケアにつなげる

こんな活動も！

採血結果を患者さんにお知らせしたかどうか、情報を共有するために……

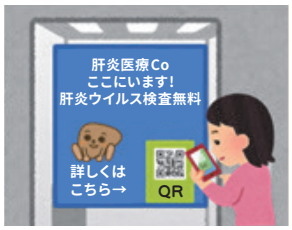
- ☑ 検査結果説明後に患者さんにサインしていただき、スキャンしてカルテに保存しておく。
- ☑ 検査当日に検査結果が出ないときは次回外来時にお伝えすることをカルテの伝達欄に記載する。

看護師の肝Co仲間を増やそう！

ホップ★

院内にポスター等を掲示することが、仲間づくりに！

院内の目に付くところ（エレベーター等）に肝Coのポスターを掲示しておくと、患者さんだけでなく、医療職への啓発にもつながります。
肝Coの活動に興味を持ってもらえたら仲間が増えるかもしれません。



ステップ★★

自分が活動する姿を見せることが、仲間を呼ぶ！

自分が肝Coとして活動している姿、それが周囲へのPRになります。
活動を見て同僚が肝Coの研修を受けてくれるかも？
また、啓発活動を通じて院内だけではなく院外にも仲間ができ、
相談ができたり、活動の励みにもなります。
市民公開講座などの地域のイベントに参加することも
立派な活動ですよ！

ジャンプ★★★

上司にも仲間になってもらおう！

肝Co活動が勤務先で認められていれば、他のスタッフから頼りにされ、患者さんにかかわるきっかけを持つことができます。
しかし、肝Coの活動は、診療報酬もつかず、あまり認知されていない場合もあります。肝Co活動がまだ認められていない場合は、**まずは直属の上司に肝Co活動を知ってもらいましょう。**活動が幅広いためにすべてを伝えるのは難しいかもしれませんが、上司に自分が行っている活動や考え、できることをアピールしてみましょう。

肝Co活動を理解してもらうための**一番の近道は上司に肝Coの研修を受けていただく**ことかもしれません。『もしもコメディカルが肝炎医療Coだったら』の本をそっと渡して活動を知ってもらうことも一案です。

患者さんのファーストタッチは
「外来看護師」

患者さんが何を求めているかを察知して
コーディネートします

ファーストタッチ！で
アセスメント力を発揮

**多くの患者さんと接する外来だからこそ
チャンスはたくさんある！！**

患者さんとファーストタッチを取れるのは外来看護師の強み。患者さんの状態をアセスメントし、なにが問題か、何を求めているのかを把握し、次につなげる大事な役目です。

＼外来看護師ってこんなお仕事です！／

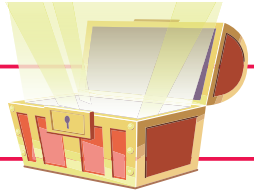
❶**アセスメント**…問診、現疾患、既往歴、バイタルサイン、身体観察、処置等を通じて、患者さんの身体状態や気持ち、現在の問題点等のアセスメントを行います。
❷**診療の補助**…医師の指示に基づく採血、注射、創処置等の診療補助を行います。
❸**療養支援や生活支援とコーディネート**…自宅で生活を行う上での疾患の注意点、服薬管理、経済的なこと、制度など幅広く生活に応じた情報提供と専門部署へのコーディネートを行います。

外来では多くの患者さんと接する機会はありますが、時間は限られており、多忙な業務の中で多くの活動ができるわけではありません。だからこそ業務の延長線上で自分ができることを少しずつ行えばよいのです！

はじめの第一歩！

見いだせ!!

問診は情報の宝箱!!



問診は話すきっかけになり、患者さんが求めていることを知ることができる絶好の機会です！

母が肝炎なんです。

先ほどの診察で分からないことや疑問点などはありますか？

お母さまが肝炎なんですね…もしよかったら、念のため検査をしてみませんか？

声をかける勇気
～自分中心から患者さん中心の考え方へ～

患者さんへの声かけに迷いが出ることはありませんか？特に経験が浅い頃は声をかけづらいですよね。そんなときには「自分が患者さんの役に立てる切り札を持っているとしたら…」と考えてみてください。声をかけづらいと思うのは自分中心の考え。医療者として患者さんのためになれるよう、患者さん中心に考えれば、声をかける勇気が湧いてくるのではないでしょうか。

HCV抗体陽性だけど、精密検査や治療を受けているのかな…？
声かけしたいけど、迷惑がられるかもしれないな…？
…でも、私の声かけによって、将来の肝がんを防げるかもしれない！

ホップ★

わかりやすい言葉で補足説明をする

診察の中で不明なこと、不安なこと、医師に聞けなかったことがないかを確認します。専門用語を使わず、難しい内容をかみ砕いて説明することも重要です。

カルテを見る時は肝炎ウイルス検査歴のチェックを！

担当の患者さんのカルテを見るときは、必ず肝炎ウイルス検査を確認する習慣をつけてみませんか？特に肝臓専門外の診療科の患者さんは要チェック！

外来治療では、助成制度や薬の説明も重要！

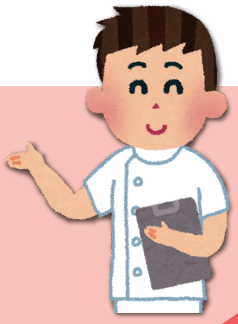
薬剤や助成制度などを説明します。自分が制度について理解が不十分な時は、制度に詳しいコーディネーターにつなげましょう。

定期検査の説明は繰り返しが必要!!

肝疾患は定期検査が重要です。必要性を繰り返し説明しましょう。

ポイント!!

C型肝炎の治療が終わると同時に外来通院をやめてしまうケースもあります。肝がんを発症するリスクがあることを治療前から説明し、治療後も定期的な外来での腹部超音波検査、血液検査が必要であることを説明しましょう。



ステップ★★

家族への対応も重要です！

肝炎ウイルス検査で陽性だった患者さんの家族に、肝炎ウイルス検査の受検の有無、検査結果を確認しましょう。もし受けていない場合は、必ず検査を勧めましょう。また、感染経路について説明することも重要ですが、その際は偏見・差別が起こらないような説明の仕方が重要です。

拾い上げでの重要な役目も

検査部から抽出された陽性者のカルテを確認し、専門医を受診しているのか、治療をしているのか等を確認し、必要時は適切な場所へつなげます。

再活性化のリスクをチェック

外来で化学療法を行う患者さんでは、B型肝炎の再活性化のリスクを確認します。特に肝臓以外の科では肝Coが活躍できる場です。

ジャンプ★★★

他部門との連携が重要です！

外来の他の診療科、化学療法室、病棟、他部門と連携し患者さんのフォローを行います。病棟から外来への情報提供があれば、退院後に外来でもこまめに状況を把握できます。

多くの診療科と接する外来だからこそ、専門外にもアプローチできます

外来には多くの診療科があり、たくさんの患者さんと日々かかわるため、肝Co活動のきっかけは数多くあります。
特に、術前に検査を行われている科では、肝炎ウイルスの検査結果が伝えられずそのままになっている事例も少なくありません。
そのような肝臓専門外でのアプローチができるのも外来看護師の強みです。しかし、マンパワー不足に悩むこともあるでしょう。専門外の科の待ち合い室に啓発のポスターやパンフレットを置くだけでも活動です。また、**肝Coの仲間を増やしたり、肝Coでなくても説明できる資材を用意する**ことも、活動の一つです。

目くばり、気くばり、心くばり

患者さんに、薬・病気・治療について説明する際に気くばりできていますか？

外来は多くの患者さんがいて、スペースの確保が難しいもの。ついつい、患者さんが座っているスペースで説明を行いがちです。肝炎であることを人に聞かれたくないと思っている方も多くいます。周りの環境に配慮したり、言語化しないようにしたり、気くばりすることは重要です。「家族だから大丈夫」と考えてはいけません。家族に聞かれたくないこともあります。

入院患者さんの日常に一番近い存在
「病棟看護師」

患者さんに提供している医療や
日常生活を把握して、トータル
コーディネートできます！

患者さんだけでなく、
家族、地域、多職種と
かかわりを持つ連携の
かなめの存在です！

こんな時は頼って下さい!!

- この患者さんはどんな人？
- 生活面で困っていることは？
- 家族背景は？

いつでも連携を！！

＼病棟看護師ってこんなお仕事です！／

❶**身体のアセスメント**…バイタルサイン、身体観察、処置、清潔ケア等を通じて、患者さんの身体状態のアセスメントを行います。

❷**診療の補助**…医師の指示に基づく採血、注射、創処置等の診療補助を行います。

❸**退院後の生活支援とコーディネート**…退院後の生活はとても重要ですから、入院時から患者さんと一緒に考えていきます。また、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーや、地域のケアマネジャー、保健師、民生委員等と連携したり、話し合いの機会を作る中心的な役割（コーディネート機能）を果たします。

❹**肝臓病教室等の啓発活動**…患者さんの生活に即した説明を心がけています。

病棟看護師の肝Co 活動事例

はじめの第一歩!

挨拶と自己紹介から患者さんが安心できる話しやすい環境を作る

患者さんに「自分を覚えてくれている」「自分の話を聞いてもらえる」と思っていただけると、安心に繋がり信頼関係を構築しやすくなります。

ポイント!

「肝疾患は繰り返し入院が必要になることが多く、完治したよと言いにくい病気でもあります。また入院か…と思っている患者さんに声をかけるときは、患者さんが負担を感じない環境づくりを心がけています」

○○さん、お身体のケアに来られましたね。

覚えてて くれたんですね、心強いです。

患者さんが安心できる環境づくりのポイント

「話のきっかけは、挨拶と自己紹介です。担当の看護師だとわかると安心されることも多く、親近感を持ってもらえると思います。
その日だけの担当でもきちんと伝えることが大事ですね!」

「大事なことを聞くときは、周りの環境に配慮します。病気のことや経済的なことを聞くときは、場所を変えたりしています。例えば、いきなり核心を突くような質問をするのはNGですね」

「感染症であることを周囲に知られたくない人もいます。B型肝炎、C型肝炎という言葉の捉え方は、患者さんと医療者では違います。そういったことに配慮できるのは肝Coの強みかもしれませんね」

病棟看護師の肝Co 活動事例

ホップ★

入院・外来患者の肝炎ウイルス検査結果の確認

担当患者さんの肝炎ウイルス検査の結果は必ず確認し、適切な受検・受診・受療につながっているか確認します。肝疾患専門以外の病棟でも、術前の肝炎ウイルス検査結果が陽性なら肝臓専門医につなげ、陰性でも必ず説明します。外来で肝炎ウイルス検査を行っている場合、検査結果の説明をされていない可能性もあります。入院している期間だからこそしっかり説明をする時間を設けることができます。

定期検査の必要性について説明する

C型肝炎の治療でウイルスを排除しても肝がん発症のリスクはあります。定期的な検査（採血と腹部超音波検査等）を受ける必要性を治療前から説明することが重要です。

免疫抑制剤、抗がん剤の治療を行う方の肝炎ウイルス検査を治療前に必ず確認する

B型肝炎ウイルス検査が行われているか確認し、検査されていない場合は医師に確認しましょう！また、治療中や治療後のウイルス量の変化にも注意しましょう。

助成制度が利用できる可能性がある人に窓口を紹介する

詳しい助成制度がわからない場合は、説明できる人につなげましょう。
まずは、利用できる可能性のある制度があることを伝えることが重要です。

ステップ★★

患者さんの入院生活でのお困りごと、退院後の生活などの相談

入院時から退院を見据えて問題解決に向け支援します。外来との連携や、地域との連携も重要であり、そのコーディネート役を担います。

肝炎ウイルス検査陽性者を専門医へつなげる

肝疾患が専門でない病棟の場合は特に肝Coの研修を受けた看護師の活躍の場です。術前検査などで肝炎ウイルス検査が陽性であれば肝疾患専門医の受診の有無を確認し、未受診ならば必ず肝臓専門医へつなげましょう。

ジャンプ★★★

肝炎ウイルス検査陽性者のフォローアップ

過去肝炎の既往がある方が定期検査を中断していないかを確認します。

院内スタッフ向けの勉強会の開催

肝疾患専門病棟以外のスタッフは、肝炎ウイルス検査の詳細を理解していない場合がよくあります。陽性の場合、一度は肝臓専門医につなぐことが重要であることを理解してもらいましょう。

肝臓病教室での講義

多職種でチームを構成し、肝臓病教室を実施します。

病棟看護師の最大の強み『コーディネート力』を十分に活用しよう

病棟看護師は、患者さんと長い時間を共有するため、1日の生活パターン、個性、好みなど、個々の患者さんの情報を深く知ることができます。だからこそ色々な問題や課題に気づくことができます。
看護師はオールマイティーに患者さんに関われる職種ではありますが、自分だけで抱え込むのではなく、それを他の職種にも伝えて、より良いケアなどにつなげていくことが求められています。

看護師は患者さんの本音や願いを多職種に知らせる翻訳者です！

特に、肝疾患をお持ちの患者さんは入退院を繰り返すことが多く、入院と地域での生活を包括的に支援することが大切です。肝Coの研修を受けた看護師は、院内・院外（地域）をつなぐ架け橋としても活躍することができます。

肝臓病教室での看護師の役割って？

多職種で連携して行う肝臓病教室。医師は診断や治療、薬剤師は薬物療法、管理栄養士は栄養療法など、それぞれの専門性を活かしそれぞれの役割を担います。では看護師はどんな役割を担うのでしょうか？
看護師は患者さん個々の日常生活に合わせて生活支援を行うことができますよね。それだけではなく、患者さんに専門的な情報を提供し、それを患者さんの日常生活にあわせるための相談やサポートを行うことができます。患者さんの理解度を確認し、目標を一緒に立てて、治療や退院後の生活に不安が残らないようにサポートしましょう。そんな一番身近で重要な役割を担っています！

『お困りごとはまず看護師に！』とお伝えし、窓口を知らせることが患者さんの安心感につながります。

みんなの相談役
「看護管理者」

活動しやすい体制づくりは
管理者の最大の活動

管理者であり、肝Coでもあるからこそ、部下の思いがわかる

部下が肝Coとして活躍することは、部署の患者支援の質の向上につながります。また、スタッフの自己学習の促進や、キャリア形成にも効果的です。肝Coとして活動できる環境を整えることこそ管理者としてできる活動なのかもしれません。

自分が実際に体験した経験だからこそ部下に伝わる

自分も上司の理解があったので活動できていました。
だからこそ今、そういう上司でありたいと思っています。

やる気があるスタッフはその場所で積極的に活動すべきであり、やりたいことが意欲につながります。
だからこそ、スタッフがやりたいことをサポートしたいです。

自分が経験して、やりがいを感じたこと、一生懸命に取り組めたことを伝えたり、自分が活動している姿を部下に見せることで、活動の輪は広がります。今では、スタッフが率先して活動を行っています。

管理者の肝Co 活動事例

はじめの第一歩！

部下の活動を認めよう!!

上司に認められることは、部下のやる気につながります。
肝Coの活動は日常業務の延長線上で行っているため、部下も自分の活動に対して、活動しているという意識が低い傾向にあります。そんな時「あなたは頑張ってるね」「それも肝Co活動だね」といった一言が、部下のモチベーションの向上につながり、継続した活動につながっていくはずです。
また、活動ができていない肝Coを責めるのではなく、焦らず活動のきっかけを探すサポートができたら最高の上司ですね。

こんな活動も！

ホップ★

部下の話を聞く

部下が何を悩んでいるのか？肝Coの研修を受けたものの活動ができていない部下には、一緒に活動を考えることも重要！
自分の経験を伝えることも、部下の力になります。

部下に肝Co取得をすすめる

やる気のあるスタッフにはキャリアアップのために
肝Coの研修を勧めてみましょう。

ステップ★★

肝臓専門医、肝疾患センターや他部署等と連携を取り体制づくりを進める

他部署の管理者に肝Coという存在や役割、活動を共有することで肝Co活動が行いやすい環境を整えることができます。

ジャンプ★★★

院内でのチームをつくり、院内での活動を広めていく

肝疾患に関する院内でのチームの立ち上げや、肝臓病教室の開催は、多職種の「顔が見える関係」が構築され、連携や活動の幅が広がります。

もし肝Coの研修を受けていないスタッフがいれば、ぜひすすめてください。肝Co活動を知り、一緒に活動を考え、輪を広げる……管理者にはそんな役割も求められているかもしれません。

管理者だからできる連携・組織構築のコツ

肝臓専門医、肝疾患センター等と連携をはかり、院内体制を作る

肝Coの活動促進のためには、まずは院内での活動を認められることが重要です。
師長といえども院内体制を構築することはハードルが高いです。
そこで、肝臓専門医と協力をして進めていくことがカギとなります。

他部署の管理者に肝Coの情報を提供する

手術件数が多い部署では、肝炎ウイルス検査を行っていても結果を伝えられずそのままになっていることも少なくありません。管理者同士の連携によって、専門外の部署にも肝Coを育成することにつながり、陽性者の拾い上げや、肝臓専門医への受診につなげることができます。

上司との連携

看護部の部長などに肝Coの活動を知っていただくことはとても重要なことです。単に肝Co活動の説明ではなく、肝Coを活用することによって、どのような結果が生じるのか等、メリットを伝えることで活動が認められ、部下の活動しやすい環境づくりが整います。

肝臓病教室の立ち上げは多職種連携のきっかけに！

肝臓病教室を通じて管理栄養士、理学療法士などの多職種との連携が構築され、活動の幅が広がります。

慢性疾患看護専門看護師（CNS）

肝疾患は継続した治療や検査が必要です。特に脂肪性肝疾患などの疾患は、慢性疾患と大きく関与しており、継続した治療やサポートが必要です。慢性疾患を専門とするCNSなどと連携できる体制を整えることで活動の幅も広がります。